

基本計画書

基		本		計		画			
事	項	記 入 欄						備	考
計	画の区分	学部の学科の設置							
フ	リ	ガッコウホウジン キンジョウウガクイン							
設	置	学校法人 金城学院							
フ	リ	キンジョウウガクインダイガク							
大	学	金城学院大学 (Kinjo Gakuin University)							
大	学	愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地							
大	学	本学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的とする。							
新	設	【文学部 国際英語学科】 豊かな人間性を育むとともに、高度な英語コミュニケーション能力と文化や言語の研究を通して身につけた明晰な思考力を活用して、ビジネス、教育、観光などの分野で、世界諸地域の人々と協働しながら主体的に活躍できる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部 国際英語学科 計	年 4	人 80 80	年次 人 - -	人 320 320	学士 (国際英語学)	文学関係	年 月 第 年次 令和8年4月 第1年次	愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	金城学院大学 （設置） 文学部国際英語学科（80）（令和7年4月届出予定） 文学部総合歴史学科（60）（令和7年4月届出予定） 経営学部経営学科（140）（令和7年4月届出予定） デザイン工学部建築デザイン学科（80）（令和7年4月届出予定） デザイン工学部情報デザイン学科（110）（令和7年4月届出予定） （廃止） 文学部英語英米文化学科（△90） 文学部外国語コミュニケーション学科（△80） 生活環境学部生活マネジメント学科（△70） 生活環境学部環境デザイン学科（△80） 国際情報学部国際情報学科（△170） （3年次編入学定員（△10）） 人間科学部コミュニティ福祉学科（△75） （3年次編入学定員（△5）） ※令和8年4月学生募集停止（国際情報学部の3年次編入学定員は令和9年4月募集停止） （入学定員変更） 文学部音楽芸術学科（△10）（令和8年4月） 人間科学部現代子ども教育学科（△20）（令和8年4月） （3年次編入学定員（△5）（令和8年4月）） 人間科学部多元心理学科（3年次編入学定員（△5）（令和10年4月）） 金城学院大学大学院 （設置） 看護学研究科看護学専攻（6）（令和7年3月認可申請）								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	文学部国際英語学科	109科目	100科目	4科目	213科目	124単位		
	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新	文学部 国際英語学科	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	86 (64)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	13 (13)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
小計(a～b)	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	7 (7)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
設	文学部 総合歴史学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	85 (66)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)		令和7年4月届出済み(予定) 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)		
	経営学部 経営学科	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	68 (58)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)		令和7年4月届出済み(予定) 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計(a～b)	10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計(a～d)	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)			

分	デザイン工学部 建築デザイン学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	79 (62)	令和7年4月届出済み(予定) 大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a~b)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a~d)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)				
分	デザイン工学部 情報デザイン学科	7 (7)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	19 (19)	1 (1)	74 (58)	令和7年4月届出済み(予定) 大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	17 (17)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			
	小計(a~b)	6 (6)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計(a~d)	7 (7)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	19 (19)				
計	37 (37)	23 (23)	9 (9)	0 (0)	69 (69)	2 (2)	— (—)		
既	文学部 日本語日文化学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	241 (241)	大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a~b)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a~d)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)				
既	文学部 音楽芸術学科	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)	0 (0)	252 (252)	大学設置基準別表第一-Iに定める基幹教員数の四分の三の数 4人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (4)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)			
	小計(a~b)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a~d)	5 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)				

人間科学部 現代子ども教育学科						13 (13)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	235 (235)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
小計 (a～b)						13 (13)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						13 (13)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
人間科学部 多元心理学科						11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)	0 (0)	216 (216)	大学設置基準別表第一に定め る基幹教員数の四分の三の 数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)			
小計 (a～b)						11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						11 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	15 (14)			
生活環境学部 食環境栄養学科						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	5 (5)	211 (211)	大学設置基準別表第一に定め る基幹教員数の四分の三の 数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
看護学部 看護学科						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)	21 (21)	225 (225)	大学設置基準別表第一に定め る基幹教員数の四分の三の 数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計 (a～b)						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						9 (9)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	21 (21)			

		薬学部 薬学科				24 (23)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	34 (32)	13 (13)	217 (217)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 24人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの						23 (22)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	33 (31)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)						1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計 (a～b)						24 (23)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	34 (32)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの (a又はbに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)						0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計 (a～d)						24 (23)	9 (8)	1 (1)	0 (0)	34 (32)			
分 計						74 (71)	30 (29)	12 (12)	0 (0)	116 (112)	39 (39)	— (—)	
合 計						111 (108)	53 (52)	21 (21)	0 (0)	185 (181)	41 (41)	— (—)	
職 種		専 属				そ の 他				計			
事 務 職 員		73人 (73人)				70人 (70人)				143人 (143人)			
技 術 職 員		1人 (1人)				2人 (2人)				3人 (3人)			
図 書 館 職 員		4人 (4人)				1人 (1人)				5人 (5人)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)				0 (0)				0 (0)			
指 導 補 助 者		0 (0)				0 (0)				0 (0)			
計		78人 (78人)				73人 (73人)				151人 (151人)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計					
	校 舎 敷 地	128,680.35㎡	0㎡		0㎡			128,680.35㎡					
	そ の 他	135,839.34㎡	0㎡		0㎡			135,839.34㎡					
	合 計	264,519.69㎡	0㎡		0㎡			264,519.69㎡					
校 舎	専 用	84,678.91㎡ (84,678.91㎡)	0㎡ (0 ㎡)		0㎡ (0 ㎡)			84,678.91㎡ (84,678.91㎡)					
	共 用												
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	353室		教 員 研 究 室			238室			大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点		学部単位での特定不能 なため、図書・学術雑 誌・視聴覚資料につい ては大学全体の数。			
	文学部国際英語学科	545,931 [127,447] (535,931 [126,947])	2,745 [599] (2,745 [599])	33,688 [24,268] (33,688 [24,268])		25,995 [23,357] (25,995 [23,357])	0 (0)	0 (0)					
	計	545,931 [127,447] (535,931 [126,947])	2,745 [599] (2,745 [599])	33,688 [24,268] (33,688 [24,268])		25,995 [23,357] (25,995 [23,357])	0 (0)	0 (0)					
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂			厚生補導施設						
		5,705.9㎡		4,594.64㎡			1,916.60㎡						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要 国際英語学科	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全 体、学術奨励寄付と受 託研究を含む。図書費 については電子ジャー ナル・データベース整備費(運 用コスト含む)を含む				
		教員1人当り研究費等	150千円	150千円	150千円	150千円	-	-					
		共同研究費等	4,500千円	4,500千円	4,500千円	4,500千円	-	-					
		図書購入費	4,000千円	6,400千円	6,400千円	6,400千円	6,400千円	-		-			
	設備購入費	27,552千円	1,078千円	1,078千円	1,078千円	1,078千円	-	-					
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
	1,422千円	1,222千円	1,222千円	1,222千円	-	-							
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等											

大学等の名称	金城学院大学								所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	文学部						0.67		愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地
	日本語日本文化学科	4	70	—	280	学士 (日本語日本文学)	1.06	昭和29年度	
	英語英米文化学科	4	90	—	360	学士 (英語英米文化)	0.62	昭和24年度	
	外国語コミュニケーション学科	4	80	—	320	学士 (外国語コミュニケーション学)	0.40	平成9年度	
	音楽芸術学科	4	45	—	180	学士 (音楽芸術学)	0.67	平成25年度	
	生活環境学部						0.94		
	生活マネジメント学科	4	70	—	280	学士 (生活環境学)	0.88	平成4年度	
	環境デザイン学科	4	80	—	320	学士 (生活環境学)	0.98	平成14年度	
	食環境栄養学科	4	80	—	320	学士 (生活環境学)	0.96	平成14年度	
	国際情報学部			3年次			0.79		
	国際情報学科	4	170	10	700	学士 (国際情報学)	0.79	平成24年度	
	人間科学部			3年次			0.80		
	現代子ども教育学科	4	120	5	490	学士 (人間科学)	0.79	平成14年度	
	多元心理学科	4	110	5	450	学士 (人間科学)	1.05	平成23年度	
	コミュニティ福祉学科	4	75	5	310	学士 (コミュニティ福祉学)	0.47	平成24年度	
薬学部						1.03			
薬学科	6	150	—	900	学士 (薬学)	1.03	平成17年度		
看護学部						1.09			
看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.09	令和4年度		
金城学院大学大学院									
文学研究科									
国文学専攻 (博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士 (文学又は学術)	0.50	平成5年度		
英文学専攻 (博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士 (文学又は学術)	0.00	平成5年度		
社会学専攻 (博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士 (社会学又は学術)	0.50	平成5年度		
国文学専攻 (博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士 (文学又は学術)	0.70	昭和43年度		
英文学専攻 (博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士 (文学又は学術)	0.30	昭和42年度		
社会学専攻 (博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士 (社会学又は学術)	0.30	昭和63年度		
人間生活学研究科									
人間生活学専攻 (博士課程後期課程)	3	3	—	9	博士 (学術)	0.33	平成11年度		
消費者科学専攻 (博士課程前期課程)	2	8	—	16	修士 (消費者科学)	0.50	平成8年度		
人間発達学専攻 (博士課程前期課程)	2	8	—	16	修士 (人間発達学)	1.13	平成8年度		
薬学研究科									
薬学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.88	令和4年度		

附属施設の概要	<p>名称 金城学院大学葉草園</p> <p>目的 薬学教育の一環として、学生に薬用植物や生薬についての生きた知識を学ばせることを目的とする。</p> <p>所在地 愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地</p> <p>設置年月日 平成17年4月</p> <p>規模(面積) 1130㎡ (温室面積63㎡含む)</p> <p>(温室面積) 63㎡</p>	
	<p>名称 金城学院大学心理臨床相談室</p> <p>目的 大学院臨床心理士養成のための実習及び学部臨床心理学実習の場を提供するとともに、一般来談者を対象とする心理臨床相談を行い、地域社会へ貢献することを目的とする。</p> <p>所在地 愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地</p> <p>設置年月日 平成13年4月</p> <p>規模(面積) 601.26㎡</p>	

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要

(文学部国際英語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
共通教育科目	基礎教育科目 金城アイデンティティ	キリスト教学(1)	1前		2			○								1	オムニバス
		キリスト教学(2)	1後		2			○								1	
		福祉とキリスト教	1後			2			○							1	
		聖書と現代社会	2前			2			○							1	
		キリスト教と文化	2後			2			○							1	
		聖書の女性観	1後			2			○							1	
		女性みらい	1前		1				○							1	
		世界の中の日本	1前		1				○							1	
		国際社会と社会問題	1後			2			○							1	
		Japanese Society and Culture A	1前			2			○							1	
		Japanese Society and Culture B	1後			2			○		1	2				5	
小計(11科目)		—	—	6	14	0	—	—	—	1	2	0	0	0	11		
言語(外国語)	ドイツ語(1)	1後			1			○							1		
	ドイツ語(2)	2前			1			○							1		
	ドイツ語会話(1)	1前			1			○							1		
	ドイツ語会話(2)	1後			1			○							1		
	フランス語(1)	1後			1			○							1		
	フランス語(2)	2前			1			○							1		
	フランス語会話(1)	1前			1			○							1		
	フランス語会話(2)	1後			1			○							1		
	中国語(1)	1後			1			○							1		
	中国語(2)	2前			1			○							1		
	中国語会話(1)	1前			1			○							2		
	中国語会話(2)	1後			1			○							2		
	韓国・朝鮮語(1)	1後			1			○							2		
	韓国・朝鮮語(2)	2前			1			○							2		
韓国・朝鮮語会話(1)	1前			1			○							3			
韓国・朝鮮語会話(2)	1後			1			○							3			
小計(16科目)		—	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8		
情報	情報リテラシー	1前		2				○							1		
	デジタル表現技術	1前			2			○							1		
	Webデザイン	1後			2			○							1		
	ビジネスデータサイエンス基礎	1後			2			○							1		
小計(4科目)		—	—	2	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	1		
教養	日本語表現の世界	1前			2			○							1		
	日本文学入門	1後			2			○							1		
	近代日本とアジア	1後			2			○							1		
	ローカル文化リサーチ	1前			2			○							1		
	日本国憲法	1前・後			2			○							1		
	金融リテラシー	1後			2			○							1		
	企業経営入門	1前			2			○							1		
	企業会計入門	1後			2			○							1		
	ビジネスと知的財産	1後			2			○							1		
	健康美容の栄養学	1前			2			○							1		
	健康とサプリメント	1後			2			○							1		
	子どもの健康	1後			2			○							1		
	女性と子どもの医学	1前			2			○							1		
	心理学入門	1後			2			○							1		
	カウンセリング入門	1前			2			○							1		
	こころの哲学	1後			2			○							1		
	環境学	1前			2			○							1		
	生活とアパレル	1前			2			○							1		
	クラシック音楽鑑賞	1前			2			○							1		
	ハンドベル奏法	1前			1			○							1		
	セルフブランディング入門	1後			2			○							1		
	大学での学び	1後			1			○		1					1		
小計(22科目)		—	—	0	42	0	—	—	—	1	0	0	0	0	19		

ド・ホーツ・アン・サ・イン	スポーツの理論と実技	1前・後			2		○											2	※実習
	フィジカル・フィットネス	1前			1				○									1	
	メンタル・フィットネス	1後			1				○									1	
	小計 (3科目)	—	—	0	4	0	—				0	0	0	0	0	0	0	2	
キャリア教育科目	キャリア開発A	1前			2		○											1	
	キャリア開発B	2後			2		○											1	
	キャリア開発C	2前			2		○											1	
	キャリア開発D	2後			2		○											1	
	キャリア開発E	3前			2		○											1	
	小計 (5科目)	—	—	4	6	0	—				0	0	0	0	0	0	0	2	
ビジネスリテラシー	経理入門と実務スキル	1前			2		○											1	
	ファイナンシャルプランニング	1前			2		○											1	
	ITとビジネス	1後			2		○											1	
	カラーコーディネート基礎	1後			2		○											1	
	数的処理と論理的思考	1後			2		○											1	
	キャリアプランニング基礎	2後			2		○											1	
	キャリアプランニング応用	3前			2		○											1	
	小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—				0	0	0	0	0	0	0	6	
プロジェクト	プロジェクトA	1通			2		○											1	
	プロジェクトB	1通			2		○											1	
	プロジェクトC	1通			2		○											1	
	プロジェクトD	1通			2		○											1	
	プロジェクトE	1通			2		○											1	
	プロジェクトF	1通			2		○											1	
	プロジェクトG	1通			2		○											1	
	プロジェクトH	1通			2		○											1	
	プロジェクトI	1通			2		○											1	
	プロジェクトJ	1通			2		○											1	
	小計 (10科目)	—	—	0	20	0	—				0	0	0	0	0	0	0	9	
グローバルキャリア	海外研修A	1・2・3・4前・後			2		○											1	
	海外研修B	1・2・3・4前・後			2		○											1	
	海外研修C	1・2・3・4前・後			2		○											1	
	海外研修D	1・2・3・4前・後			2		○											1	
	海外インターンシップ	1・2・3・4前・後			2		○											1	
小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—				0	0	0	0	0	0	0	1		
各教科の指導法・教育の基礎的理解に関する科目等(中・高・)	英語科指導法A	2通			4		○			1									
	英語科指導法B	3前			2		○				1								
	英語科指導法C	3後			2		○					1							
	学校と教育の歴史	1前・後			2		○											1	
	教職入門	1前・後			2		○											1	
	教育社会学	2前・後			2		○											1	
	発達と学習	1前・後			2		○											1	
	特別支援教育の理論と方法	2前・後			2		○											1	
	教育課程論	3後			2		○					1							
	道徳教育の理論と方法	3前・後			2		○											1	
	総合的な学習の時間の指導法	2前			2		○											1	
	特別活動の指導法	3後			2		○											1	
	教育の方法及び情報通信技術の活用	2前・後			2		○											2	
	生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法	3後			2		○											1	
	教育相談	1前・後			2		○											1	
教育実習A	4通			5							1						2		
教育実習B	4通			3								1					2		
教職実践演習(中高)	4後			2		○						1					2		
小計 (18科目)	—	—	0	0	42	—				1	1	0	0	0	0	0	10		
専門教育科目	基礎科目																		
	英語圏文化入門	1前	○	2			○			1									
	英米文学の世界	1後	○	2			○			1								1	
	英語のしくみ	1前	○	2			○			1	2							1	
	国際社会の中の英語	1後	○	2			○			3	4	1						1	
国際社会とジェンダー	1前	○	2			○											1		
小計 (5科目)	—	—	10	0	0	—			5	5	1	0	0	0	0	0	2		
																		オムニバス オムニバス オムニバス	

英語 展 開 科 目	翻訳演習(1)	3前		1			○		1							
	翻訳演習(2)	3後		1			○		1							
	翻訳プロジェクト	3後		1			○		1							
	通訳演習(1)	3前		1			○			1						
	通訳演習(2)	3後		1			○				1					
	通訳演習(3)	4前		1			○		1							
	通訳演習(4)	4後		1			○		1							
	通訳プロジェクト	4後		1			○				1					
	小計(8科目)	—	—	0	8	0		—		1	1	0	0	0	0	0
フ キ ッ ズ ・ イ ン グ リ ッ シ ョ ン 展 開 科 目	早期英語教育研究	3前		2			○									1
	早期英語教育教材研究	3後		2			○			1						
	Classroom English	4前		1			○			1						
	早期英語教育実習	4後		1				○								1
	小学校英語	2前		2			○			1						
小計(5科目)	—	—	0	8	0		—		0	2	0	0	0	0	0	1
エ ア ラ イ ン プ ロ グ ラ ム 展 開 科 目	English for Hospitality	2前		1			○		1							
	コミュニケーションスキル	2後		1			○		1							
	エアラインビジネス論	2前		2			○									1
	エアラインサービス論	3前		2			○		1							
	ホスピタリティ論	3前		2			○									1
	サービスコミュニケーション論	3前		2			○		1							
	サービスコミュニケーション演習	3後		1			○		1							
	エアライン実地研修	3後		1				○	1							
小計(8科目)	—	—	0	12	0		—		1	0	0	0	0	0	0	2
開 視 光 展 開 科 目	観光学研究A	2前		2			○		1							
	観光学研究B	2後		2			○									1
	観光学プロジェクト	3後		1				○								1
	観光学実地研修A	2前		2				○	1							
	観光学実地研修B	2後		2				○	1							
	小計(5科目)	—	—	0	9	0		—		2	0	0	0	0	0	0
英 語 ビ ジ ネ ス プ ロ グ ラ ム 展 開 科 目	経営戦略論A	2前		2			○									1
	経営戦略論B	2後		2			○									1
	女性起業論A	3前		2			○									1
	女性起業論B	3後		2			○									1
	ビジネス実践プロジェクトA	3前		2				○								1
	ビジネス実践プロジェクトB	3後		2				○								1
	ビジネス英語A	2前		2				○	1							
	ビジネス英語B	2後		2				○	1							
	ビジネス英語C	3前		2				○	1							
	ビジネス英語D	3後		2				○	1							
小計(10科目)	—	—	0	20	0		—		2	0	0	0	0	0	0	2
演 習 科 目	基礎演習(1)	1前	○	1				○	2	3						
	基礎演習(2)	1後	○	1				○	2	3						
	専門演習(1)	2前	○	1				○	2	1	1					
	専門演習(2)	2後	○	1				○	2	1	1					
	専門演習(3)	3前	○	1				○	5	4	1					
	専門演習(4)	3後	○	1				○	5	4	1					
	専門演習(5)	4前	○	1				○	5	4	1					
	専門演習(6)	4後	○	1				○	5	4	1					
	小計(8科目)	—	—	8	0	0		—	5	4	1	0	0	0	0	0
合計(213科目)			—	—	58	255	42	—	7	7	1	0	0	0	86	

学位又は称号	学士(国際英語学)	学位又は学科の分野	文学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
共通教育科目18単位(必修12単位、言語(外国語)から1言語選択4単位、選択2単位) 専門教育科目106単位(必修46単位、展開科目から44単位、各コース選択必修16単位) 各コースの選択必修科目16単位は以下とする。 (英米文化研究コース) 「イギリス文化概論」、「イギリス文学概論」、「アメリカ文化概論」、「アメリカ文学概論」 の8単位、英米文化研究コース展開科目から8単位 (英語研究コース) 「英語構造研究(1)」、「英語構造研究(2)」、「英語音声研究(1)」、「英語音声研究(2)」 の8単位、英語研究コース展開科目から8単位		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	14週
計 124単位 卒業に必要な最低単位数 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))		1時限の授業の標準時間	100分

授 業 科 目 の 概 要

（文学部国際英語学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎教育科目	金城アイデンティティ	キリスト教学（1）	金城学院大学はキリスト教の精神を基盤として建てられた学校である。それゆえにキリスト教を学問として学ぶことが必修となっているのであるが、本授業では、プロローグとしてキリスト教と金城学院との関係を知るところから始め、宗教と文化の関係、そしてキリスト教の正典である『聖書』の内容へと進む。旧約聖書も新約聖書もキリスト教の核となる要点を中心に進める。金城学院の建学の精神を担う「キリスト教」とはどのような宗教なのか、またその「正典」である『聖書』は何をつたえようとしている書物なのかに関して、基礎的な知識を身に付ける。	
		キリスト教学（2）	「キリスト教学(1)」の継続授業として後期に展開する。授業は、キリスト教の歴史にそって講義を進める。キリスト教の成立（原始キリスト教会）から中世の教会、宗教改革による教会の転換期を経て近代、現代へと展開し、歴史上の出来事とともに各時代の主要な神学者とその思想も考察する。2千年前の成立から現代に至るキリスト教の歴史を知ることによって、キリスト教が世界史にどれほどの重要な影響を及ぼしてきたのか、また日本にどのような影響を与えているのかを理解する。	
		福祉とキリスト教	なぜ「福祉とキリスト教」について学ぶのか。それは、キリスト教が日本で受容されるうえで、「教え」の伝道と共に、医療に加えて福祉実践も重要な役割を果たしたからである。この講義では、「キリスト教社会福祉とは何か」を皮切りに、カトリックの慈善事業、プロテスタントのソーシャルワーク、子ども・家庭福祉の発展とキリスト教、高齢者福祉の発展とキリスト教、セツルメント・地域福祉とキリスト教、障害のある人の福祉の発展とキリスト教、ハンセン病とキリスト教、貧しい人とキリスト教などについて講義する。	
		聖書と現代社会	聖書と現代社会の授業では、聖書の教えが今日の社会にどのように影響を与えているかを探求する。授業では、倫理的価値観、道徳的指針、そして文化的影響を通じて、聖書が人々の日常生活や社会的な意思決定にどのように組み込まれているかを分析する。また、聖書の物語が現代の法律、政治、教育、芸術にどのように反映されているかも考察する。授業を通じて、学生は批判的思考を養い、多様な視点から聖書のテキストを読み解く能力を高める。	
		キリスト教と文化	キリスト教文化とは何か。教義や欧米におけるキリスト教の歴史、発展を学ぶ。後半は主に日本のキリスト教に影響を与えたアメリカのキリスト教やフェミニスト神学等について学ぶ。授業は2部形式で実施し、授業の初めにアメリカ公民権運動のビデオを視聴し1950年～60年代の黒人差別と教会の働きを学ぶ。その後、授業計画に沿って講義を進める。キリスト教の教義や歴史的発展過程が、どのような文化を形成しているかを理解し、キリスト教文化についての知識を深めることで、今日の社会問題や国際政治問題への視点を養う。	
		聖書の女性観	『聖書』には、神が導く歴史を生きてきた女性たちの生き様が男性たちの生き様と同様に記録されている。しかしどの時代も『聖書』を教え伝える担い手が男性であった故に、女性について語られることは二次にされてきた。この授業では、旧・新約聖書に記録されている女性たちに目を向けて、彼女たちがどのように生きたのか、神による人類救済の歴史にどのように参与してきたのかを考察する。キリスト教の「正典」である『聖書』の全編を通して、どのような女性観を持っているのか、個々の女性達の物語を通して『聖書』が示す「神の救済史」の全体像を理解する。	
		女性みらい	特定のライフステージにおいて、多くの女性が遭遇すると予測される問題（身体的課題・心理的危機など）を取り上げ、その知識を基に、各ライフステージにおける様々な問題に直面しながら、女性がどのように問題解決していくことが望ましいのか、自分自身の将来ビジョンと照らし合わせて考察できるよう教授する。ライフステージごとの身体的課題と心理的危機とを理解し、それらへの対処方法を身に付けて実践できる能力を身に付ける。	
		世界の中の日本	金城学院大学の国際理解の理念から、日本社会や国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。授業では、ゲストスピーカーを招き、本学における国際理解の位置づけを理解した上で、どのような国際交流が展開されているか、現地の状況も紹介しながら学んでいく。日本・世界の諸地域を事例として取り上げ、世界各地の多様な文化や日本の多文化社会について理解を深めることで、受講生が広い視野を持つことができることをめざす。	

	国際社会と社会問題	惑星規模で広がる現代の様々な社会的イシューや社会問題について、従来の講義形式に豊富な映像資料を結びつけ、初学者にも分かりやすい導入的なレクチャーを行う。具体的には環境問題、気候変動、ジェンダー、人種、エスニシティ、社会的不平等（貧困）、南北格差、経済開発、政治的権威主義、戦争（内戦）といった事柄がテーマとなる。この講義の受講者は、惑星規模で世界が経験する、分断と紛争に満ちた現代社会のあり様について、歴史的・現代的な視点から概要を理解できるようになる。	
	Japanese Society and Culture A	日本と世界の社会問題を取り上げ、現代社会に対する理解を深める。授業は原則として英語で行うが、必要に応じて日本語でも説明や資料提供を行う。社会学の視点から、貧困問題、差別問題、労働問題、社会運動、都市政策、資本主義などのトピックを取り上げ、日本や世界の社会構造、文化的慣習、政策の背景について学ぶ。授業形式は講義やケーススタディや映像資料などを組み合わせた授業を行う。日本社会の多様な側面を学び、グローバル化における重要な社会問題について考察する力、日本の社会と文化に対する包括的な理解を促す。	
	Japanese Society and Culture B	日本文化と外国文化を比較することで、多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養を身につける。授業は原則として英語で行い、必要に応じて日本語でも説明を加える。学生には基本的なリスニングおよびライティングの英語スキルを求め、各回講義だけでなく、授業内容に沿ったレポート作成を英語で課す。日本のライフスタイル・文化・言語、宗教などの様々な要素を説明できる能力、日本文化と生活を他国と比較分析し、理解するための視点を養うことを目標とする。様々な専門分野の視点からオムニバス授業として複数担当者で講義する。 (オムニバス方式/全14回) (13 PALLER, Daniell./2回) 食文化 (8 ASHUROVA, Umidahon/2回) 移民政策 (2 尾崎志津子/1回) インターネット英語 (41 畠山正人/2回) 地方文化・ライフスタイル (50 中村健司/2回) 企業文化・労働観 (49 桑原牧子/2回) 思想・精神 (44 松谷暉介/1回) 宗教文化 (43 吉松純 /2回) 美意識	オムニバス方式
言語 (外国語)	ドイツ語 (1)	ドイツ語の初級レベルの基本的文法理解を目指す。ドイツ語は、EUヨーロッパ連合で最大の話者数 (9,000 万人以上) を誇る言語であるばかりでなく、英語の姉妹語であり、両者の基本的文法構造と重要基礎語彙はかなり似ている。このことから、本授業では、教科書に沿ってドイツ語の初級文法をできるだけ英語と比較対照しながら学習を進めるとともに、ドイツ語圏諸国の文化紹介をビデオ等の補助教材を用いて、ドイツ語の基礎と簡単な文化を学ぶ。	
	ドイツ語 (2)	ドイツ語の初級文法の学習をできるかぎり英語のそれと比較対照しながら進める。あわせて、教科書に載っている練習問題を数多くこなすことにより、ドイツ語の作文力を確実に身に付けて向上させていく。また、「ドイツ語(1)」に引き続き、ドイツ語圏諸国 (ドイツ以外にドイツ語を公用語としているオーストリアやスイス等の中欧の国々を含む) の文化紹介をビデオ等の補助教材を使って行うことで、ドイツ語文法の基礎と文化を学ぶ。	
	ドイツ語会話 (1)	ドイツ語会話の入門授業である。すなわち、日常会話程度の基礎的なドイツ語コミュニケーション能力を総合的に養成する。例えば、ドイツ語圏の国々に旅行する際、簡単な会話を通して、ドイツ語で意思疎通ができるようなドイツ語の運用能力を身に付ける。取り扱う会話単位としては、発音練習、人と知り合いになる上での挨拶や自己紹介の仕方、簡単な日常会話、気持ちを伝えるための簡単な意思表示の仕方、など、基本的な会話が中心である。	
	ドイツ語会話 (2)	「ドイツ語会話(1)」で習得したドイツ語会話をさらに高めることを目的とする。すなわち、簡単な会話を通して、ドイツ語で意思疎通ができるようなドイツ語の運用能力を身に付ける。「ドイツ語会話(1)」同様、ネイティブスピーカーの教師のもとで学ぶことの有利性を活かし、会話を中心にドイツ語の総合的運用能力のさらなる育成を目指す。取り扱う会話単位としては、「趣味について」、「食事について」、「家族について」、「時刻と日付」などである。	
	フランス語 (1)	フランス語の発音の仕方を覚えるとともに、フランス語の骨格となる初級文法を学習し、簡単な文による意思の疎通ができるようになることを目指す。「フランス語(2)」へと続く一年間の授業の前半であることから、初めてのフランス語に慣れることと、語学学習を継続するための基礎を固める。教科書に従ってフランス語の基本的文法を解説し、パターン練習を繰り返す。授業では特に、まずつづり字をフランス語風に読めるようになることから始める。	

フランス語 (2)	「フランス語(1)」からの一年間の授業の後半である。引き続きフランス語の発音の仕方を覚えるとともに、簡単な文による意思疎通ができるようになるため、フランス語の骨格をなす初級文法を学習する。については、フランス語の基本を体系的に理解するとともに、知識をゆっくり確実に身に付けて使いこなせるようにする。学習のため、実用フランス語技能検定5級の過去問等をのぞいてみたり、有名なシャンソンを聴いてみたりと、ヴァリエーションを広げて授業を進める。
フランス語会話 (1)	基礎的なフランス語会話を学習して、フランス語でコミュニケーションする態度を育てるのが本授業のねらいである。日常的なフランス語に触れながら、ペアでの発音練習や、教師との対話を通して、正しい発音ができるようにする。フランス語の発音に慣れ、基礎的な表現や語彙にもとづいた運用をすることができ、基礎的な文法や日常生活に必要な言い回しを覚えることで、幅広く実践的なコミュニケーション能力を身に付けることを目指す。
フランス語会話 (2)	日常的かつ基本的なフランス語会話を学習する。挨拶の仕方や自己紹介の仕方を対話形式で練習するが、一番の目的としてはフランス語に親しむことに重点を置く。授業の中では、何をしているかを尋ねたり、場所を尋ねたり、あるいは「家族を語る」対話練習など、身近な会話の練習を繰り返し行う。また、文法として疑問文のつくり方、否定文のつくり方、否定疑問文の応答などについても具体例を交えながら学ぶことで、コミュニケーション能力を身に付けていく。
中国語 (1)	中国語の基本文型を学習し、文を正しい順序で作ることができるようにする。また文法に基づきながら、中国語の簡単な会話文を理解できるようにする。特に初級者を対象とするため、まず教科書にしたがって発音練習を行う。その後、中国語の基本文型を学習しながら、単語の入れ替え練習などで文法を習熟させる。また、教科書の会話に基づいて、簡単な自己紹介ができるようにする。そのほか、授業を通して中国語文化についても紹介し、中国語を広い視点から理解できるようにする。
中国語 (2)	教科書本文の反復練習により、単語に習熟し、基礎文法を学習する。また、「中国語(1)」で学習した発音をチェックし、正しい発音で中国語が読めるようになっていない場合は、正しい発音の練習を行う。その上で、基本単語の習熟と基礎文法の学習に努め、教科書本文の会話を使って簡単な日常会話に対応できるように、また、文を正しい順序で作ることができるようにする。前期同様、中国語文化についても授業の中で紹介をし、中国語を広い視点から理解できるようにする。
中国語会話 (1)	中国語会話の入門として、まずはきちんとした中国語が話せるように発音に重点をおいて練習・学習を進める。については、母音、鼻母音、子音、音調、軽声、変調など、発音上の注意事項を説明し、中国語の発音が理解できるようにする。また、自己紹介を中心に、日常生活のさまざまな場面の会話(名前の読み方、物の尋ね方、年齢の読み方、曜日や日にちの読み方、場所の読み方、など)を練習する。そして、学習した文型を利用しながら、自分が話したい内容を中国語で表現できるように指導する。
中国語会話 (2)	「中国語会話(1)」に続き、自己紹介を中心に、日常生活のさまざまな場面の会話を練習する。また、学習した文型を利用しながら、自分が話したい内容を中国語で表現できるように指導する。テキストには『一目瞭然中国語入門』を使用し、「あなたは何人家族ですか」「あなたはどんな趣味をお持ちですか」など、日常よくあるものを数多く取り上げて練習する。日常会話に直結した会話を覚えることにより、実際に使うことができる中国語の会話力を獲得する。
韓国・朝鮮語 (1)	韓国は、日本から見て地理的に一番近い国であり、歴史的にももっとも密接な関係を持っている国である。韓国の文字であるハングルの歴史と創製原理を基本から学び、韓国・朝鮮語の言語的特徴とその構造を日本語と比較しながら学習を進める。文字の読み方・つづり方及び発音規則等の基礎を固めるとともに、言葉を通じて韓国人とその文化に対する理解を深めていくのが本授業の目的である。文化紹介などヴァリエーションを広げて授業を進める。
韓国・朝鮮語 (2)	発音の復習、発音規則の確認など、「韓国・朝鮮語(1)」で学習した内容の復習から始め、さらに韓国語の基礎文法に対する知識を学習し、簡単な文による意思疎通ができることを目指す。また、韓国の歴史や文化に関する話題も豊富に取り入れ、言葉の根底にある歴史的伝統や文化的背景に対する理解も深めていく。あわせて、発音規則に沿ったセンテンス読みの練習をしながら、基礎的な文法に対する正確な知識習得と基礎語彙を学習する。

	韓国・朝鮮語会話(1)	教材として韓国のテレビドラマを使い、挨拶・自己紹介・買い物などの日常生活に必要な表現や決まり文句などを、まずは文字から離れて耳と口で覚えていく。大きい声で繰り返し発音することによって、頭の中で言葉を組み立てるのではなく、自然に口から言葉が出てくるように繰り返し練習する。その過程の中で、文字や文法に対する基本知識も身に付けるとともに、ドラマを通して韓国人の慣習、文化、生活感覚に対する理解を深める。	
	韓国・朝鮮語会話(2)	教材として韓国のテレビドラマを使い、挨拶などの日常生活に必要な表現や決まり文句などを、文字から離れて耳と口で覚えていく。「韓国朝鮮語会話(1)」と同様、大きい声で繰り返し発音することによって、頭の中で言葉を組み立てるのではなく、自然に口から言葉が出てくるように繰り返し練習する。授業に中での会話練習では、願望・依頼・勧誘・許可・禁止・好き嫌い・可能・義務・意図・推量・後悔といった各表現の仕方を学ぶ。	
情報	情報リテラシー	高度に情報化の進んだ現在、私達はさまざまな情報やデータ、AIなどの技術が活用された社会の中で生活している。これらは正しく利用すれば生きていくうえでとても役立つ知恵を与えてくれるはずで、そのためには情報やデータに関する基本を学ぶ必要がある。本授業では数理・データサイエンス・AIについての基礎的な学習を行いつつ、パソコンの基本としてのワープロ機能・表計算機能・プレゼンテーション機能の基礎的な学習も行う。さらに情報倫理を身に付けたり、タイピングスキルの向上も目指す。	
	デジタル表現技術	デジタル技術を活用した表現手法を幅広く学ぶことを目的とする。授業では、画像編集、動画制作、Web制作など、マルチメディアを用いた情報発信技術を総合的に学習し、それらの技術を習得する。プロジェクト等を通じて自身のアイデアをデジタル作品として形にすることで、創造力と技術力の両方を向上させる。作品へのフィードバックを行うことにより、デジタルコンテンツ制作の基礎から応用までの技術を学ぶだけでなく、その活用方法までを学ぶ。	
	Webデザイン	現代の重要な情報発信の手段になっているWebの仕組みを基礎から理解し、実習を通じてWebサイトの制作技法を習得する。具体的には、Webデザインに必要な基本的なルールやコーディングの方法を学習し、実際の制作のフローに沿ってWebサイトを制作することにより、HTML・CSSの実践的な使い方を習得する。その他にもサイトの公開や運用に関する知識までを身に付けることにより、自分でサイトの開設ができるようになる。	
	ビジネスデータサイエンス基礎	データを活用して適切な意思決定を行うための基礎的な方法を学ぶ。授業では、標準化された大量データを統計的に分析する手法を習得し、ビジネス上の課題や傾向を数値的に解釈する能力を養う。また、インタビュアーや観察などの手法を用いて、人々の意見や感情を定性的に分析し、新たな価値や洞察を得るスキルも身に付ける。さらに、オープンデータの活用やデータの倫理についても掘り下げ、具体的なビジネス事例に触れながら、将来のビジネスリーダーを育成するための土台を築く。	
	日本語表現の世界	日本語の表現力の向上と、読む人にとってより分かりやすい作文が書けるようになることを目標とする。具体的には、文章が分かりにくくなってしまいう原因として、時制の問題や視点の問題、文と文との関係について意識を向けて文章を読み、それをまねることで文章力の向上を目指す。また、上級レベルの文型についても取り上げて、多様な表現を使いこなす力も養う。授業内でのトレーニングを併用することにより、日本語の表現力向上を目指す。	
教養	日本文学入門	日本文学を通史的に概観しつつ、日本文学に関する基礎的問題について解説する。具体的には明治より以前の時代において、すでに1000年以上の歴史をつむいできた古典文学を重視し、奈良・平安・鎌倉・室町・江戸と時系列に沿って、各時代の著名な作品をピックアップする。また優れた作品が生み出された歴史的背景や時代性に注目することで、古典への理解をより深めることができることから、古典文学への歴史的アプローチを大切にします。	
	近代日本とアジア	近代日本を、戦争史を中心に考察を進める。近現代日本の戦争の歴史とその背景などについて、アジアを例に読み解く。具体的には、日清戦争から第二次世界大戦の終結までを戦争・兵士・アジアの観点から読み解いていく。近代日本の戦争に動員された人々について、多面的に検討、考察を進めることで、戦後の日本社会やアジア周辺諸国との関係・交流についても戦争と関連づけて検討することができる。日本とアジアの関係を歴史を通して理解することができる。	
	ローカル文化リサーチ	座学として、町の歴史的な特性を把握し、その上で、名古屋市もしくはその周辺地区の抱える課題について、ゲストスピーカーを招き考察する。各論としては、具体的な地区を想定して、その地区の歴史や課題を整理するとともに、フィールドワークの具体的手法を学習する。そして、実際にその地区の詳細についての現地調査を踏まえた上で、あるべき姿をグループでの議論(ワークショップ形式)を通して整理する。最終的には名古屋とその近隣地区の魅力向上についての提案を行う。	

日本国憲法		憲法には、各種の基本的人権と政治の基本的枠組みが定められている。そこには、その国のそれまでの歩み（歴史）が反映されていると同時に、将来に向けた決意（目指すべき姿）が示されている。このことを意識しながら、重要条文を取り上げて日本国憲法についての理解を深めていく。また、憲法は私たちの暮らしを支える土台となるものであるため、日々の生活と憲法との関わりについても、身近な事例を幅広く紹介しながら学んでいく。	
金融リテラシー		日常生活で直面する金銭に関する疑問や生活するうえでの必要となる知識の習得を目指す。具体的には金銭管理や運用などの課題に焦点を当て、予算の立て方、節約術、緊急時の資金作り、賢い消費者としての行動指針など具体的な方法を学ぶ。また、金融商品についての学びを盛り込み、学生に適した財政管理だけでなく、生涯にわたる資産形成にも役立つものとする。自立に向けた経済的な基盤作りをサポートし、実生活への応用を目指す。	
企業経営入門		企業経営に必要な基本的知識を学ぶ。内容としては企業経営の知識体系全般をカバーする。具体的には、株式会社の仕組み、資金調達の方法、経営戦略、マーケティング、人的資源管理、技術経営、ベンチャー企業の特性などである。これらの経営に関する基本知識をより深く理解するために、成功・失敗事例などを用いて解説する。また、これらの企業経営に関する知識を活用したビジネスプランの作成なども行い、授業の中でプレゼンテーション等を実施する。	
企業会計入門		企業会計は、企業の経済活動を貨幣価値で表現するための仕組みである。私たちは、企業の財務諸表を見ることによって、企業の事業活動の状況を理解することができる。また、経営者が達成すべき数値目標や、企業経営の効率性を測定する指標となりうるものでもある。本授業において学生は、企業における会計の基本的な考え方や財務諸表の見方・分析方法を学ぶ。これらの会計の基本知識をより深く理解するために、実際の財務諸表を用いて解説する。	
ビジネスと知的財産		企業や個人が生み出した優れた知識や情報は、ビジネスを展開するうえで非常に重要な資産となっている。こうした知識や情報は「知的財産」として法的保護が与えられることがあり、ビジネスを継続して発展させる仕組みの一つとして企業や個人に広く活用されている。授業では、実際の企業のヒット商品の事例を用いて、特許、商標、著作権などの知的財産権を基本から学習する。また、基本的財産権を理解したうえで、企業や個人がどのように知的財産制度を活用しているのかを学ぶ。	
健康美容の栄養学		心身の健康は見た目だけではない人としての美しさ（健康美容）を保持増進するために必要である。授業では健康の基礎となる成長・発達・加齢に伴うライフステージを学び、ステージで異なる身体機能の変化や、生活習慣、栄養素摂取の特徴を習得する。ライフステージに適した健康美容の在り方を考え、自身の食生活や栄養摂取の課題を見出し、解決できる策を見出す。授業で習得した栄養管理方法を用いて、自身の健康だけでなく周囲のものに配慮するための方法を学ぶ。	
健康とサプリメント		近年、サプリメントなど、いわゆる健康食品の利用が拡大している。健康における栄養素や食品成分の機能について解説し、栄養バランスのとれた食事習慣の重要性、必要に応じたサプリメントの使い方を紹介する。また、生活習慣病、とくに肥満について栄養・運動の関わりやその予防策を学ぶ。健康管理のための栄養素および機能性食品素材について理解し、サプリメントに関する正しい使い方、継続的に健康な生活を送ることの重要性を理解する。	
子どもの健康		子どもの健康にまつわる課題を包括的に学び、よき支援者としての理解、判断力、子どもに関わる場面で実際に役立つアプローチを身に付けることを目指す。授業では、乳幼児から思春期までの発達段階における特有の問題を取り上げて、適切な対応を考える。最新の統計や研究データを参照し、体（解剖）、運動、怪我、栄養、睡眠、心理などのテーマを掘り下げ、子どもが健康的な生活をし、それを習慣にするための支援について議論する。	
女性と子どもの医学		女性のライフサイクルに関連する健康課題（妊娠、出産、更年期など）と女性特有の病気、さらには子どもの発達と病気について学習する。授業では、日常での健康管理方法や予防接種に関する内容（小児期の一般的な病気や予防接種のスケジュールなど）について具体的な例を示しながら、初心者にも分かりやすい内容で解説する。日常生活や将来の家族計画に役立つ知識と健康管理や病気予防に関する実用的な知識を身に付けることができる。	

心理学入門	広く学問としての心理学を理解し、心のメカニズムについて、基礎的な知識の習得を目指す。授業期間をゾーンに分け、前半は基礎心理学として、脳のメカニズムや認知、比較心理学などについて概要を説明する。後半は、対人関係に関する心理として、社会心理学や教育心理学・臨床心理学など、人間の行動の基礎とその応用、心理学が関連する職業などについて解説する。いずれも心理学の基礎を説明するにとどまるので、授業時間外での自主学習を重視する。
カウンセリング入門	カウンセリングおよび心理療法の基本を理解するとともに、自己理解を深めることを目標とする。授業期間をゾーンに分け、前半は心理療法の基礎知識として、精神分析的な心理療法、来談者中心療法、認知行動療法、遊戯療法など、代表的な立場の心理療法について解説する。後半は、架空事例の概説や映像教材の鑑賞を通して、座学で学んだ内容をより深く理解することを目指す。前半と後半に、それぞれ1単元ずつ実施するワークからは自ら取り組み、気づきを得る体験に繋げる。
こころの哲学	東アジアの伝統哲学の視点から自分のこころを分析し、豊かな人間性を育むことを目的とする。授業では、まずヨーロッパと東アジアの哲学史の流れを紹介し、それぞれの世界観と人間観の特徴について考える。その上で、こころに関わる「心」「性」「情」「徳」などをキーワードとして、中国や日本でこころをどのように位置づけてきたかを明らかにする。現代とは異なる世界の見方を知ること、自分のこころを捉え直すことができることをめざす。
環境学	地球環境の悪化は年々深刻になりつつある。私たちが地球上で生活していくためには、何をすべきか。また、私たちの生活に密接にかかわっている「衣・食・住」においては、環境依存度が非常に高く、環境問題と切り離すことはできない。地球にやさしい生活を実行するため、あらゆる領域で環境への負荷を低減する努力が最近急速に進んでいる。授業では、衣食住の中で、とくに「衣」についての環境問題を取り上げ、その現状と対策を具体的に学習する。
生活とアパレル	アパレルは、衣服を意味する。衣服は人間にとって最も身近な物であり、第二の皮膚ともいわれている。そのため、心地よい衣生活を送るためには素材の物性・意匠・管理方法など、多面的に考える必要がある。本授業の前半では、着衣時の衣服を構成する要素や人間に与える影響、着用場面に応じた衣服の選択、素材にあった手入れ方法の選択などを概説する。後半では、アパレル産業の仕組みと課題、これからの社会が求める衣服について講義する。とくに、e-テキスタイル、スマートテキスタイルといった着るだけで心拍や呼吸数、筋電等の生体データを取得できる衣服、エコフレンドリーな繊維などを取り上げ、より美しく、より快適で、より環境に優しい衣服について学ぶ。
クラシック音楽鑑賞	音楽のなかでも様々な感情を呼び起こすと言われているクラシック音楽。それぞれの曲の背景や、作曲家の人生を学び、より深く曲を聴くことが出来るよう準備し、その音楽を鑑賞する。こころの動きである、「怒り」、「悲しみ」、「愛」、「心の平穏」など、その感情を引き起こす音楽を複数比較して聴く事により、時代の違いや、作曲家個人の表現を認識し、幅広いクラシック音楽のスタイルを学ぶ。クラシック音楽の本質を学ぶことにより、これからの生活を豊かにすることができる。
ハンドベル奏法	ハンドベルによる演奏を実技形式で行う。ハンドベルという楽器の仕組み演奏方法を基本から学習・理解し、楽器の特性を通してメンバーひとりひとりの存在を尊重することと、協調性、コミュニケーションの大切さを学ぶ。また、協力して曲を仕上げていく過程を実際に体験することにより、発表の場で表現する達成感へと繋げる。ハンドベルという特有の楽器を通して、演奏することのすばらしさだけでなく、音楽そのものの楽しさを理解し、他者に説明できる力を養う。
セルフブランディング入門	何気ない日常での動作や話し方のなかでも、相手に好印象をあたえられる人物になることを目指す。具体的には、身だしなみ、マナー・所作、言葉遣い、会話力・傾聴力、ビジネス場面での対応力などの対人関係スキルの向上と、SNS上でのマナーやトラブル事例、ハラスメント、多様性など、現代社会で必要とされる問題について学ぶ。これらの基本概念や実践方法を学ぶことにより、自分の魅力や特性を見つめ直し、自ら行動できる力を養う。
大学での学び	大学入学前の高校生を対象とした科目であり、「大学で学び」と題して、高校生が入学を希望する学部学科ごとの入門的・概要説明の授業を展開する。授業は当該学科の学びの概要を体系的に説明する。また、実際に学習を体験する機会を設け、具体的なイメージを与える。入学前に学習すべき内容を理解できること、入学後の学習イメージができることにより、入学後のミスマッチを防止する効果がある。また、入学後の学修への導入的な役割を期待する科目でもある。

スポーツ・アンド・エクササイズ	スポーツの理論と実技	スポーツの基礎的な理論と実技の学びを通して、生涯にわたって健康的・文化的に様々なスポーツを実践することへの理解を深めます。理論の授業では、スポーツ科学や体育理論の観点から、スポーツ実践の意義や効果、文化としてのスポーツの意義等を理解する。実技の授業では、ゴール型やネット型球技などのチームスポーツの実践を通して、運動スキル、戦略を考える力、スポーツマンシップ、協調性などを身に付け、体力と健康を維持する。	講義 11.7時間 実技 11.7時間
	フィジカル・フィットネス	スポーツや身体運動の実践は、ココロだけでなく、カラダや生活にも良い影響をもたらします。この授業では、スポーツ科学の基礎的な理解に基づき、スポーツや運動の実践がみなさんのカラダや生活に及ぼす影響を、運動の実践を通して理解するものです。具体的には、様々なスポーツやフィットネス種目の継続的な実践が、自身の筋力や持久力、柔軟性、疲労耐性、健康に生活する力などに結び付くことを、運動するカラダを通して理解します。	
	メンタル・フィットネス	スポーツや身体運動の実践は、カラダだけでなく、ココロや生活にも良い影響を与える。この授業では、スポーツ科学の基礎的な理解に基づき、スポーツや運動の実践がココロや生活に及ぼす影響を運動の実践を通して理解する。具体的には、様々なスポーツやフィットネス種目の継続的な実践が、自身の気分や自己肯定感、自信、健康に生活する力などに結び付くことを、体を実際に動かすことから学ぶ。運動とココロの関係を理解し、スポーツとの向き合い方を考察する。	
キャリア教育科目	キャリア開発A	大学時代はキャリアの基礎をつくる重要な時期である。入学直後にキャリア開発の重要性を知り、これからの大学生活で身に着きたい能力や知識などを考える。自分らしい生き方についてのイメージを明確にするために、キャリアアセスメントを実施し、多面的に自己分析を行う。また、働く環境を知るために、業界や職種、組織に関する基礎知識、ダイバーシティ推進など職場の課題について学ぶ。そして、10年後のマイキャリアビジョンを作成し、発表を行う。	
	キャリア開発B	ビジネスシーンで求められるマナーやコミュニケーションを、実践を通じて習得することを目的としている。印象管理やスマートな身のこなし、望ましい言葉遣い、効果的なコミュニケーション・ツールの活用の仕方などを学ぶ。そして、自分の考えを分かりやすく伝えることや、傾聴することを実践する。また、様々な職務を行う際に必要な基本的な問題解決力や思考力を、ディスカッションやグループワークを行うことにより経験的に学習する。	
	キャリア開発C	大学を卒業後、多くの人が組織内で職業人としてキャリアを発展させる。本授業では、入社直後の新入社員から部署をまとめるリーダーになるまでに直面するキャリア上の課題を考える。それぞれの課題に関わるキャリア心理学理論、人的資源管理の基礎、課題に対処するために必要なスキルなどを学習する。また、管理職などリーダー役割を積極的に担うことを求められることも多いので、女性が職場で活躍するために必要なリーダーシップについて学ぶ。	
	キャリア開発D	「仕事と私」をテーマに、様々な仕事の領域で活躍している卒業生をゲストスピーカーとして招き、実体験を通じた講演を中心とした授業である。これまで講演をしていただいた方々は、メーカー、金融、建築、商社、運輸、ホテル、福祉、人材派遣、コンサルティング、公共団体などの分野で活躍している。具体的な就職活動や就職のきっかけ、仕事の喜び、やりがい、苦労したことなどを、受講者の先輩として、また同性として率直に話をしてもらおう臨場感あふれる学びの場である。	
	キャリア開発E	東海地区の大企業を中心とした約10社より、社長あるいは社長経験者の方々をゲストスピーカーとして招き、「キャリアの本当の意味」をテーマに展開する授業である。事前に、客員教授の所属する企業や業界について学生が各自で調査をして、基礎知識を持ったうえで講義に臨むようにする。また、客員教授の登壇がない授業回では、ビジネスの基礎知識や、社会人として知っておきたい用語などについて解説を行い、社会人になる準備を整える。	
ビジネスリテラシー	簿記の基本原則と実用的な技術の習得を目指す。具体的には、仕訳の入力方法や帳簿の記録方法、財務報告書（バランスシート、損益計算書等）の作成技術について詳しく解説する。授業では、これらの原則と技術を実際の商取引の例を通じて学び、経理業務の実務経験を積むための演習を行う。簿記の知識は、日常生活での予算管理や将来のキャリアでの意思決定に役立つ基礎知識となる。このような実践的な学習を通じて、簿記が企業運営における重要なツールであることを理解する。		

	ファイナンシャルプランニング	個人の生活設計と金融リテラシーの基本を学ぶ。具体的には、収支管理、貯蓄、投資、保険の選び方、住宅ローンの仕組み、年金制度など、日常生活に必要な金融知識を身につける。授業では、将来のライフイベントに備えた資金計画の立て方を学び、経済的な安定を目指すための具体的な方法を理解します。ケーススタディを用いることで、理論だけでなく、実際の状況に即した知識とスキルを身に付けることができる。これにより、個々の状況に合わせた賢明な金融判断を下す能力を養う。	
	ITとビジネス	現代社会における情報システムの基本概念とその役割について学ぶ。具体的には、コンピュータの基本的な仕組み、ハードウェアとソフトウェアの構成、ネットワークの基礎、データ管理の方法、情報セキュリティの仕組みと重要性などを学ぶ。授業では、実践的な演習を通じて、日常生活やビジネスシーンで役立つITスキルを中心に身に付ける。現代社会における情報システムの役割を多面的に理解し、ITリテラシーの向上と活用を促進することを目的とする。	
	カラーコーディネート基礎	色彩は感情や行動にも影響を与えるため、デザインやマーケティング、心理学の分野でも重視されていて、人が受け取る情報の約8割は視覚情報だと言われている。視覚から受け取れる情報は色・形・質感があり、重要な役割を果たしている色彩の役割を理解するため、基本的な色彩理論と応用を組み合わせて、基本的なカラーコーディネート・色の表示・色彩調和について学び、日々の生活や職業に活かせる理論と技術を身に付けることを目指す。	
	数的処理と論理的思考	論理的思考、数的処理、言語理解の技術を教授する。数学的知識を身につけることにより、数値・データを読み解き、情報を整理し、理解・説明する能力を身につける。非言語分野においては、割合と比、濃度、速度算、確率など数学の基礎から学び、問題を数多く解くことで幅広く対応する力を身につける。言語分野においては、長文読解、文章整除、熟語、ことわざ、慣用句などの問題演習を繰り返し行うことで実践的な能力を身に付ける。	
	キャリアプランニング基礎	社会で求められる汎用スキルや姿勢、志向性を理解し、自身の能力向上に注力する。具体的には、学生は1年次に受験したPROGテストの結果をもとに、自己のスキルを客観的に評価する。このプロセスにおいて、グループワークを活用し自己評価の結果を共有することで、弱点を克服する。データや経験に基づいた分析を通じて自己PRを作成し、効果的な学習や課外活動の計画を立てることができる。社会人として必要な能力を具体的に理解し、自己能力の向上につなげる。	
	キャリアプランニング応用	授業では、自分自身の興味や価値観を深く理解することから始め、自分が何に興味を持っているのか、何を大切にしているのかを明確にする。次に、これらの興味や価値観を基に自己分析を行い、自分の将来のビジョンを描く。そして、そのビジョンを実現するために必要な業界や企業について研究し、自分がどのような理由でその業界や企業を目指すのか、志望動機を考える。このプロセスを通じて、自分自身のキャリアパスを考え、就職活動に役立てることができる。	
プロジェクト	プロジェクトA	教育機関等との教育・ビジネスプロジェクトを通して、実践的なスキルの養成を目的とする。学生は教育機関等で発生する実際の問題を特定し、新しい提案を通じて解決策を模索する。これにより、現場で必要とされる教育スキル、ビジネススキル、リーダーシップ力、協調性などを身に付けることができる。本プロジェクトでは、タスク管理、ヒアリング、フィールドワークの方法、データ活用方法等を学び、実践的なスキルの獲得を目指す。	
	プロジェクトB	企業や各種団体等と連携し、実際のビジネスプロジェクトに取り組むことで、ビジネスの実践的スキルの獲得を目的とする。学生は、企業や団体で実際に発生している問題を発見し、それらを解決するための新規提案による解決を目指す。企業や団体等と接することで、社会人として必要なビジネススキルや、問題発見力などだけでなく、マナー、リーダーシップ力、協調性などが身に付く。本プロジェクトでは、調査、分析に基づく提案書の作成などを行う。	
	プロジェクトC	海外での活動を通じて、国ごとに異なる社会情勢やその見解の違いを理解する。学生は予め設定された課題に対して、チーム活動による問題の解決を図る。具体的には、事前調査の方法やデータ分析・活用方法、フィールドワークの手法、歴史、言葉や文化などを学び、現地調査のための準備を行う。現地では、ヒアリング調査などを通して、予め設定した目標の達成を目指す。プロジェクトの進行管理、外国人との協働を通じて、グローバルな視点での対応力と問題解決力を身に付ける。	

	プロジェクトD	国内での活動を通じて、自らが能動的に物事に取り組み、目的を達成するための方法を学ぶ。学生は予め設定された課題に対して、チーム活動による問題解決を図る。具体的には、事前調査の方法やデータ分析・活用方法、フィールドワークの手法などを学び、調査のための準備を行う。活動では、効率的な調査方法を用い、それぞれが設定した目標の達成を目指す。調査後には報告書を作成し、プロジェクトの進行、目標の達成度などを検証することで、振り返り学習を行う。	
	プロジェクトE	社会課題（一部の地域や組織における営みを含む）に焦点をあて、その現状把握と分析を通して、課題の具体的な解決策を考える。学生は、チーム学習により当該問題に関する歴史、類似の事例、外国との比較分析などを行い、当該問題が及ぼす社会的な影響を把握する。その後、チームや個人が持ち合わせている知識を議論などにより応用させ、問題の解決案を策定する。これらの学習により、実社会で何かの問題に直面した際にも、知識ベースで問題を解決するための力を身に付ける。	
	プロジェクトF	都市郊外や農山村の自然環境に目を向け、環境の特性を知るとともに、自分たちでもかかわることのできる環境保全・地域づくり活動を体験する。また、「里山」をキーワードに、私たちがこれまで培ってきた社会的、文化的な資産を再認識しつつ、日本が抱える少子高齢化や過疎の問題に立ち向かうために若者が担いうる役割を考える。本授業では、協働作業、成果の報告とフィードバックを通じて、実社会で役立つスキルを実践的に学ぶ。	
	プロジェクトG	ボランティア活動への関心や動機を高め、知識と理解を深めることを目的とする。近年の大学教育では、教室で講義を受けて知識を学ぶだけでなく、学生が主体的に調べ、実社会で他者とかわる体験をして、思いやりや豊かな感性、社会性を身に付ける学習方法も求められている。この授業は、学生が自分で探したボランティア先ないしは担当教員が紹介するボランティア先で、主体的にボランティア活動を行い、事前・事後の学習を通じて、ボランティア活動への関心や動機を高め、知識と理解を深める。	
	プロジェクトH	乳幼児親子・子育てに関する理解を深めることを目的とする。学生はテーマに基づき、KIDSセンターでの参加観察、作業及び資料・文献の研究等を行う。＜テーマ：KIDSセンターの遊び環境作り＞KIDSセンターにおける親子自由遊び場面の参加観察Ⅰと資料・文献検索に基づき、小グループで、子どもたちの遊びを広げる手作り段ボール遊具等の企画と製作を行う。さらに参加観察Ⅱを実施し、手作り遊具が実際にどのように用いられるかを観察し、結果をまとめて発表する。	
	プロジェクトI	女性の健康に焦点をあて、肉体的、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた健康状態について学ぶ。健康の意義、健康習慣、健康食品・医薬品などの基礎知識を学び、健康をささえる社会の取り組み、身近な健康維持に関する施設やその役割、健康ビジネスなどを調査する。本授業では、女性が健康状態を維持するための知識と方法を施設見学やヒアリング調査、体験を通して学び、みずから実践できるようになることを目標とする。	
	プロジェクトJ	学生の自由な発想で、自ら設定した課題を自らの力で解決する。学生は、少人数のグループを作り、グループでひとつの課題を解決するという経験を通して、発信力や表現力、協働力などを向上させることができる。また、課題解決に向け資料や文献を集め、それらをまとめて人に伝える必要があるため、能動的、自発的な学習を経験できる。正解・解答のある課題に取り組み知識・技能を得ることではなく、正解のない課題を通して問題解決へのアプローチ方法を身に付けることを目標とする。	
グローバルキャリア	海外研修A	英語圏での語学研修プログラム（1回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	
	海外研修B	英語圏での語学研修プログラム（2回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	

	海外研修C	英語圏以外での語学研修プログラム（1回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	
	海外研修D	英語圏以外での語学研修プログラム（2回目）に参加するなどして、一定期間を海外で過ごすことで様々な体験をし、それによって国内では習得が困難な現地ならではの多様な学習効果を得ることができる。大学主催のプログラムだけでなく、学生自身が興味深いと思うプログラムであっても単位取得に値すると判断される場合は、それに参加して十分な成果をあげた学生に対して単位取得を認める。単位認定の基準は現地での授業とアクティビティを合わせて45時間以上とする。	
	海外インターンシップ	海外インターンシップを通じて、グローバルな視野を持つこと、海外で実務経験を積むことを目的とします。学生は現地企業での業務を体験し、異文化環境で多様な価値観に触れながら、他者と協働すること学びます。さらに、言語力の向上、ビジネスマナーの習得を通じて、グローバルなビジネススキルを身に付けます。異文化の中で生活し、仕事をすることは、自己管理能力や適応力、問題解決能力など、個人の成長に役立つ多くのスキルを養うことができる。	
各教科の指導法・教育の基礎的理解に関する科目等（中・高・栄養免許）	英語科指導法A	主要な第二言語習得理論及び外国語教授法を学び、日本の英語教育制度の全体像を理解する。また、英語授業を成り立たせるための優れた指導法を学び、実地に運用できるようにする。授業は、テキストに加え、配布資料、視聴覚教材を用いて行う。授業内で、小テスト、プレゼンテーション、模擬授業を行い、授業外でレポートが課される。第二言語習得理論と外国語教授法の基本を理解する。日本の学校英語教育の歴史と現状を理解し、課題に目を向け、克服のための道筋を提案できるようにし、現代の中高英語授業の標準的構成要素を理解する。教育実習に向けて、英語授業の学習指導案を作成し、その指導案に従って授業を運営する実践力の基礎を養う。	
	英語科指導法B	「ことばと人間・文化・社会との関係」を知ることから始まり、英語教育の目的、目標、方法を学ぶ。目的論では英語教育の理念や政策について、目標論では、具体的な言語材料や題材について、方法論では、よりよい授業づくりについて学ぶ。討論や発表などでは自分の意見を述べ、他のメンバーの意見に耳を傾け、学び合う姿勢をもって積極的に取り組むよう求める。英語教育の目的・目標・方法に関する知識・技術を習得し、教えることの奥深さを知り、自分の言語観・教育観を論理的に示すことができ、英語教育に関する学びから、人間・ことば・文化に対するやさしさを持つことができるよう講義する。	
	英語科指導法C	外国語教育・英語教育のあり方、日本の英語教育に関する諸問題について、人格形成、恒久平和、言語多様性などの観点を踏まえて議論する。また、効果的な4技能の指導法を、レポート発表を通じて議論し、模擬授業で実践する。討論や発表などでは自分の意見を述べ、他のメンバーの意見に耳を傾け、学び合う姿勢をもって積極的に取り組むことを求める。英語教育のあり方について自分の立場を論理的に示すことができ、「何を伝えたいのか」を明確にして指導案を作成し、模擬授業ができること、英語教育に関する学びから、人間・ことば・文化に対するやさしさを持つことができることを目標とする。	
	学校と教育の歴史	古代ローマから現在に至るまでの学校と教育の歴史を通史で学ぶ。常に、今日的な教育課題に引き寄せながら考える機会を設け、歴史的事項の意味をより深く理解できるようにするとともに、現在の教育課題に対してその歴史的経緯を踏まえた上で考察することができるようになることを目指す。教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。	
	教職入門	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、子供の現状、教育に関わる法律や学習指導要領についての理解を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付けられるようにする。調査レポートに取り組んだり、新聞記事を読んだり、グループでディスカッションをしたりし、教育課題に対する考えを深める。その中で、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解できるようにする。	

教育社会学		現在の教育課題が生み出されている社会的・制度的背景を理解し、その課題を解決するための方策について考える。授業では、ペアまたは小グループでの話し合い活動を重視し、学生の主体的な授業参加を求める。授業はグループでのディスカッションと発表を行う。現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。	
発達と学習		子どもの成長を支援するために重要な発達と学習の基本的な知識について学ぶ。特に幼児期から青年期までの学校教育にかかる期間を中心に、認知、情動、対人関係などの発達と学習について概観し、これまでの心理学研究や理論を紹介しながら、子どもの理解や教育的対応について考える。「おとなになる」ということは、どのようなことを意味するのだろうか。人間は二十歳になれば、はたしておとなになるのか。本授業ではこのような疑問に対して、教育・発達心理学的な観点からとらえ、「子どもからおとなへ」の発達過程を理解するとともに、その過程における学習や経験の役割を考えていく。	
特別支援教育の理論と方法		2015年に採択された国連「持続可能な開発目標」には、「すべての人々に安全で、包括的、効果的な学習環境を提供する質の高い教育」という2030年までの目標が掲げられた。日本でも特殊教育から特別支援教育への制度的な転換が行われ、特別支援教育の認識を広げるためには歴史や課題、方策を考察する必要がある。障害のある生徒や対人関係に課題を抱える生徒をどのように理解し、どんな指導をすればよいかということについて探究したり、障害にかかわる知識を深めたりする中で自分の行動や考え方を振り返る。	
教育課程論		日本の教育課程の歴史を概観するとともに、変化の目まぐるしい21世紀社会におけるさまざまな教育問題を考える。また、学習指導要領に基づく教育課程を各学校においてどのように実践するか、カリキュラム・マネジメント、授業デザインの方法論などを、人間教育の理念と関連付けながら議論する。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	
道徳教育の理論と方法		前半に道徳教育の歴史・理論・方法などについて学習し、道徳教育を実践していく上での基礎を培う。その上で読み物資料を使った授業やモラルジレンマ授業などいくつかの授業方法について学習し、指導案作成と模擬授業を体験する。グループでのディスカッションと模擬授業を行う。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。	
総合的な学習の時間の指導法		授業形式は、講義と自己プレゼンテーションの発表である。自己プレゼンテーションの発表（以下自己プレと記述）は、自宅学修でまとめたものを授業で発表する。アクティブ・ラーニングの推進に相応しい教育活動、全教科、領域の教育活動と横断的総合的に関わる単元計画づくり、自己の生き方を探求するキャリア教育との関わり、SDG sの観点から課題解決に関わる授業づくり、学校現場で生き生きと活躍する教師や児童生徒の姿を理解する。	
特別活動の指導法		特別活動の目的や歴史、指導に必要な理論の紹介に引き続き、学級活動、学校行事、生徒会活動（児童会活動）、クラブ・委員会活動等、学校で行われている実践事例の分析をグループワークやアクティブラーニングを通じて行い、特別活動における各活動の特徴と指導の在り方を考える。さらに、今日的課題に基づいて授業実践の在り方を学習指導案作成を通じて学修する。また、キャリア教育との関わり課題研究を通じて調べ、キャリア教育の要としての特別活動の在り方について理解を深める。	
教育の方法及び情報通信技術の活用		児童・生徒に身に付けさせるべき、これからの社会で必要となる資質・能力について理解し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業設計能力や実践力を、討論や学習指導案作成、模擬授業等を通じて身に付ける。また、ICTを活用することで従来は実現が困難であった個別最適化された学習が可能になることや、特別な支援を要する児童・生徒がICTを活用することにより効果的に学習できること等を理解する。基本的な授業スキル、生徒への学習指導、指導案作成の方法等を実践的に学ぶ授業を行う。	
生徒・進路指導とキャリア教育の理論と方法		生徒指導・進路指導の在り方・進め方について理論、実践両面から学習する。講義前半では、生徒指導・進路指導が学校教育にどのように位置づけられているのか、またその意義・目的は何か、近年の青少年を取り巻く問題をトピックとして取り上げながら論じていく。また、後半では前半で学んだ理論的背景を基礎として、実際に現場で起こりそうなケースについて受講者全員で議論し、教師としてどのような指導を心掛けていく必要があるのか、理解を深めていく。（Jambordもしくは大体できるツールを活用したALを実施予定）	

教育相談		教育相談をテーマにしながら、教育現場において様々な心の問題に向き合うために必要な知識や姿勢について学習する。幼児期・児童期・思春期・青年期の各発達段階において見られる諸問題について理解を深めると同時に、支援の方法について学ぶ。また、教育現場における社会的なニーズに応じた支援や、学校内や地域との連携なども扱う。教育相談に関わる基本的な理論や知識を学習することにより、教育現場における心の援助のための基本的な姿勢を身に付けることを目標とする。	
教育実習 A		基本的な授業スキル、生徒への学習指導、指導案作成の方法等を実践的に学ぶ授業を行う。教師の仕事及び学校生活を理解することや、学校現場における生徒を理解すること、大学で学んだ理論と実践を統合させ指導力を身に付けることを目標として実習を行う。事前指導として、自身の教育観についての振り返り、教育実習の意義と課題、教育実習記録の書き方、教育実習中の注意事項、模擬授業、実習に向けた準備、心構え等を学ぶ。事後指導では、教育実習で学んだことのまとめと教師になるためにその経験を生かす方法について学修する。	
教育実習 B		実際の授業を担当できるだけの準備を事前指導で行い、教育実習から得た自分の課題等を分析するために事後指導を行う。基本的な授業スキル、生徒への学習指導、指導案作成の方法等を実践的に学ぶ授業を行う。教師の仕事及び学校生活を理解することや、学校現場における生徒を理解すること、大学で学んだ理論と実践を統合させ指導力を身に付けることを目標として実習を行う。教育実習で学んだことのまとめを事後指導として行うことで、より実践的な指導力を身に付ける。	
教職実践演習（中高）		教員として必要な資質・能力を、講義、演習、課題（教育現場の調査等）の中で養成することをめざす。学内で学んできたこと学外での教育実習等で学んだことを基に、主体的に自分の資質・能力をさらに向上させていけるよう、自己を振り返らせたり、学生同士で議論させたりする場を複数回設定する。意見の発表やロールプレイ、模擬授業等を行い、その都度、学生間の相互評価と指導者からの評価の両方を行って指導する。また、特色ある教育活動や学校が直面している問題等を取り上げ、それを調査し、考察する課題を課す。中学校教員としての実務経験を活かし、教育現場の問題について議論したり、自身の教育観について振り返らせたり、模擬授業を通じて授業スキルを磨く場面を設定したりするなど、アクティブラーニング型の授業を行う。	

専門教育科目	基礎科目	英語圏文化入門	○	英語の背景にある英語圏地域についての理解と関心を深め、英語を学ぶ意義を明らかにする。イギリス、アメリカを中心に英語圏の地誌、歴史、社会、文化を学び、国際理解と国際協調の精神を養う。重点を置いているトピックは、「古代・中世のイギリスと英語の変化の関係」、「プロテスタントの思想と英米社会」、「民主主義社会の成立」、「アメリカ合衆国の各地域の特性」、「イギリス英語とアメリカ英語」、「オーストラリア英語の特徴」である。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目
		英米文学の世界	○	英語で書かれた代表的な文学作品に親しみながら、英語圏の文化について理解を深める。詩、劇、小説という3つのジャンルの作品を、言語と文化が交差する場として捉え、表現の方法と時代背景という二つの側面から考察する。重点を置いているトピックは、「文学言語の特徴」、「シェイクスピアの主要作品」、「イギリスにおける叙事詩と抒情詩」、「イギリスの女性作家」、「アメリカの人種問題と文学」、「英米のファンタジー文学」である。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目
		英語のしくみ	○	人間言語としての英語のしくみについて理解することを目指す。言語とは何か、そして英語とはどのような言語なのかについて、音声、文、コミュニケーション、歴史の観点から考える。授業は講義形式で行うが、授業の途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。 (オムニバス方式／全14回) (3 高野祐二／7 回) 言語とは何か、文のしくみ、コミュニケーションのしくみ (16 高野道枝／7 回) 音声のしくみ、英語の歴史	オムニバス方式 主要授業科目
		国際社会の中の英語	○	国際語としての英語の役割と諸相について理解することを目指す。国際語とは何か、そして英語がグローバル社会において国際語としてどのような役割を果たし、どのように使われているかを、社会的、文化的小および教育・学習的観点から考察する。 (オムニバス方式／全14回) (4 種村俊介／3 回) 言語習得と英語学習 (9 柴田里実／3 回) 言語習得と英語教育 (11 橘広司／8 回) 国際語としての英語、英語と社会、英語と文化、世界の英語	オムニバス方式 主要授業科目

	国際社会とジェンダー	○	<p>ジェンダーとは本来多様な個人のあり方を、男性と女性の二つのカテゴリーに分類するものである。ジェンダーに関連する様々な概念と理論を学び、国際社会におけるジェンダーに関する諸問題を批判的に捉える。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(2 尾崎志津子/1回) ことばとジェンダー：言語ごとの違い、言語にかかわらない普遍的な特徴</p> <p>(5 田村章/2回) イギリス文学におけるジェンダー表象、イギリス社会におけるジェンダーバランスの変革</p> <p>(6 朴珣英/3回) ジェンダーとは、ジェンダーに関連する概念と理論、ディズニー映画におけるジェンダー表象</p> <p>(14 相川裕亮/1回) アメリカ政治思想におけるフェミニズム</p> <p>(8 ASHUROVA, Umidahon/2回) 世界のジェンダー平等政策について、ソーシャルメディアのジェンダー平等に与える影響について</p> <p>(9 柴田里実/2回) 世界の絵本で学ぶ多様性教育、児童文学・YA 文学に描かれるジェンダーとは</p> <p>(12 戸澤裕子/1回) ことばとジェンダー：男性・女性を表すことば、男性・女性が用いることば</p> <p>(15 大八木豪/1回) アメリカ史におけるジェンダー</p> <p>(17 落合建仁/1回) キリスト教とジェンダー：聖書とキリスト教史より</p>	オムニバス方式 主要授業科目
基幹科目	Reading Skills (1)	○	<p>英文読解の基本的な技能を習得することが授業の目標である。そのために、フィクション、ノンフィクション、研究論文などさまざまなジャンルの英文を読んでいく。英文法の基礎的知識に基づいて、英文を正しく読むことからはじめ、少しずつ要点をつかんで早く読む訓練に取り組んでいく。英語語彙の増強も重視し、頻繁に小テストを実施する。学期の後半では、特定のテーマについて資料の英文を読み、クラス内でディスカッションを行う。</p>	主要授業科目
	Reading Skills (2)	○	<p>「Reading Skills (1)」に引き続き、英文読解の基本的な技能を習得することが授業の目標である。そのために、フィクション、ノンフィクション、研究論文などさまざまなジャンルの英文を読んでいく。英文法の基礎的知識に基づいて、英文を正しく読むことからはじめ、少しずつ要点をつかんで早く読む訓練に取り組んでいく。英語語彙の増強も重視し、頻繁に小テストを実施する。学期の後半では、特定のテーマについて資料の英文を読み、クラス内でディスカッションを行う。</p>	主要授業科目
	Speaking Skills (1)	○	<p>教科書で扱われている日常のトピックについてペアやグループで英語を話す練習を繰り返すを行い、基本的な会話表現を身に付ける。トピックには、自己紹介、朝食、週末の活動、アルバイト、学校生活等が含まれる。授業では、会話や筆記による小テストを随時行うことにより、英語表現の定着を図る。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online) により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。</p>	主要授業科目

Speaking Skills (2)	○	「Speaking Skills (1)」に引き続き、教科書で扱われている日常のトピックについてペアやグループで英語を話す練習を繰り返し行い、基本的な会話表現を身に付ける。トピックには、家族、友人、外出、レストラン、買物、強みと弱み等が含まれる。授業では、会話や筆記による小テストを随時行うことにより、英語表現の定着を図る。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。	主要授業科目
Speaking Skills (3)	○	英語による効果的なプレゼンテーションの技術を身に付けるための訓練を行う。準備としてアウトラインとメモを作成し提出する。それらに基づき授業で合計4回のプレゼンテーションを行う。また、会話とディスカッションの練習も行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。	主要授業科目
Speaking Skills (4)	○	「Speaking Skills (3)」に引き続き、英語による効果的なプレゼンテーションの技術を身に付けるための訓練を行う。プレゼンテーションの練習は、一つのテーマについて、アウトライン作成、練習、改善、そして最終プレゼンテーションという形式で行う。また、会話とディスカッションの練習も行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。	主要授業科目
Writing Skills (1)	○	基本的な英文法と語彙力を習得するとともに、英文パラグラフの構成を理解し、これらをもとに整った英文パラグラフを書く力を身に付ける。「Writing Skills (1)」では、手本となる英文パラグラフを観察・分析した上で、とくに主題文と支持文の関係、ディスコース・マーカーに留意しながら、短いパラグラフを2種類仕上げることになる。そのために、それぞれについて、アウトライン、初校、再校を担当者に提出することが求められる。	主要授業科目
Writing Skills (2)	○	基本的な英文法と語彙力を習得するとともに、英文パラグラフの構成を理解し、これらをもとに整った英文パラグラフを書く力を身に付ける。「Writing Skills (2)」では、手本となる英文パラグラフを観察・分析した上で、とくに比較、対照、原因と結果、時間順等の構成に留意しながら、短いパラグラフを2種類仕上げることになる。そのために、それぞれについて、アウトライン、初校、再校を担当者に提出することが求められる。	主要授業科目
Writing Skills (3)	○	「Writing Skills (1)(2)」で学習した内容をふまえて、英文法の知識と語彙力を拡充するとともに、英語による文章の構成を理解し、これらをもとに整った英文エッセーを書く力を身に付ける。「Writing Skills (3)」では、手本となるさまざまな英文を観察・分析した上で、とくに序論、本論、結論という段落の役割にも留意しつつ、短い英文エッセーを2種類仕上げることになる。そのために、それぞれについて、アウトライン、初校、再校を担当者に提出することが求められる。	主要授業科目
Writing Skills (4)	○	これまでに学習した内容をふまえて、英文法の知識と語彙力を拡充するとともに、英語による文章の構成を理解し、これらをもとに整った英文エッセーを書く力を身に付ける。「Writing Skills (4)」では、手本となるさまざまな英文を観察・分析した上で、とくに序論、本論、結論という段落の役割にも留意しつつ、少し長めの英文エッセーを2種類仕上げることになる。そのために、それぞれについて、アウトライン、初校、再校を担当者に提出することが求められる。	主要授業科目

English Grammar (1)	○	テキストを用いて英文法の要点や重要構文を学習する。さらに種々の練習問題を解くことを通じて、総合的な英文法力を高める。取り上げるおもな文法項目は、「基本文型」、「時制」、「進行形」、「完了形」、「完了進行形」、「助動詞」、「受動態」、「不定詞」、「分詞」、「分詞構文」、「動名詞」、「比較」等である。日頃の英語学習においても英文法を意識し、正しく英語を用いることを目指す。授業内で学生同士が英文法についてディスカッションを行う時間を設ける。	主要授業科目
English Grammar (2)	○	「English Grammar (1)」に引き続き、テキストを用いて英文法の要点や重要構文を学習する。さらに種々の練習問題を解くことを通じて、総合的な英文法力を高める。取り上げるおもな文法項目は、「関係代名詞」、「関係副詞」、「仮定法」、「話法」、「節」、「名詞」、「代名詞」、「形容詞」、「副詞」、「前置詞」、「接続詞」等である。日頃の英語学習においても英文法を意識し、正しく英語を用いることを目指す。授業内で学生同士が英文法についてディスカッションを行う時間を設ける。	主要授業科目
Extensive English (1)	○	この授業は英語のリーディングの技能を向上させることを第一の目標とする。授業内外の課題として、担当者が指定した様々なジャンルやレベルの英語図書を読書記録をつけることが求められる。こうすることにより、英語を日本語に訳すことなく、英語のまま理解できるようにすることを目指す。英語の読書課題と読書記録、アウトプット活動のための課題が課されるほか、学期中に試験が2回実施される。フィードバックは授業内で行う。	主要授業科目
Extensive English (2)	○	この授業は英語のリスニングの技能を向上させることを目標とする。英語学習アプリ「English Central」による学習が授業内外で課され、リスニングと発音の練習に取り組むほか、語彙力も養う。週ごとのリスニングの課題は金城学院大学ラーニングポータルに情報のリンクをアップする。毎週、教材に関する全体の理解を試すテストを行う。その他のリスニング用教材もクラスで扱い、小テストや要約などのテストをとおして理解力を向上させる活動や評価を行う。授業は英語で行う。	主要授業科目
Integrated English (1)	○	統合的な英語力を身に付けるために、英語による会話、ディスカッション、プレゼンテーションの訓練を行う。さらに、個々の単語、および文を単位とした発音練習も行う。また、英語によるエッセーを書く練習を行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。	主要授業科目
Integrated English (2)	○	「Integrated English (1)」に引き続き、統合的な英語力を身に付けるために、英語によるディスカッション、プレゼンテーション、ディベートの訓練を行う。さらに、文脈を意識した発音練習も行う。また、英語によるエッセーを書く練習を行う。英語を話す機会を増やすために、授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。	主要授業科目
Integrated English (3)	○	統合的な英語力を身に付けるために、日常の内容から文化的・学術的内容まで広範囲のテーマについて英語によるロールプレイ、ディスカッション、プレゼンテーションを行う訓練をする。さらに、これらの活動を通じて発音指導も行う。また、上記テーマについて700語程度の英文エッセーを書く練習をする。授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。	主要授業科目
Integrated English (4)	○	「Integrated English (3)」に引き続き、統合的な英語力を身に付けるために、日常の内容から文化的・学術的内容まで広範囲のテーマについて英語によるディスカッション、プレゼンテーション、ディベートを行う訓練をする。さらに、これらの活動を通じて発音指導も行う。また、上記テーマについて1,000語程度の英文エッセーを書く練習をする。授業外でもクラスメート同士で会話の練習を行い、それを録音してLMS (Learning Management System online)により、授業担当者に提出することが求められる。授業は英語で行う。	主要授業科目

Advanced English (1)	○	広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく読む力、および論理展開や構成を意識して英文を書く力を身に付ける。そのために、フィクション、ノンフィクション、研究論文などさまざまなジャンルの英文を正確に読む練習をする。読んだ英文をもとに英語による文章の書き方への理解を深め、500語程度の英文を書けるように訓練を重ねていく。試験に加えて、ライティングの課題、語彙や英文法の小テストなどが課されることになる。学生の積極的な学習が求められる。	主要授業科目
Advanced English (2)	○	「Advanced English (1)」に引き続き、広範囲のテーマに関する多様な英文を正しく読む力、および論理展開や構成を意識して英文を書く力を身に付ける。そのために、フィクション、ノンフィクション、研究論文などさまざまなジャンルの英文を正確にかつ速く読む練習をする。読んだ英文をもとに英語による文章の書き方への理解を深め、600語程度の英文を書けるように訓練を重ねていく。試験に加えて、ライティングの課題、語彙や英文法の小テストなどが課されることになる。学生の積極的な学習が求められる。	主要授業科目
Advanced English (3)	○	フィクション、ノンフィクション、研究論文などさまざまなジャンルの英文を数多く読むことにより、高いレベルの語彙力を習得するとともに、英語を正確にかつ速く読む力を高めていく。また、これまでの英文法とライティングの学習を基盤にして、学生自身の調査に基づく700語程度の英文エッセーやリサーチペーパーを論文の書式に従って書く練習をする。毎回リーディングの予習が求められるほか、リサーチペーパーを計4回提出することが課される。	主要授業科目
Advanced English (4)	○	「Advanced English (3)」に引き続き、さまざまなジャンルの英文を数多く読むことにより、語彙力を拡充するとともに、英語を正確にかつ速く読む力を高めていく。また、学生自身の調査に基づく1,000語程度の英文エッセーやリサーチペーパーを論文の書式に従って書く練習をする。毎回のリーディングの予習が求められるほか、リサーチペーパーを計4回提出しなければならない。国際英語学科の英語学習の仕上げとして、全力で取り組むことが期待される。	主要授業科目
TOEIC演習A		基礎英語力を定着させ、TOEIC L&Rテストで500点以上を目指す。TOEICの受験勉強を通して、ビジネスで必要となる英語実践力を幅広く身に付ける。具体的にはボキャブラリーの増強、リスニング能力の向上、ビジネス文書の読解能力、およびさまざまな状況での会話表現である。中間試験、期末試験に加えて、頻繁に小テストが課される。さらに、ビジネス語彙を含んだ会話文・アナウンス文の暗唱発表も求められる。自ら積極的に学習することが求められる。	
TOEIC演習B		基礎英語力を定着させ、TOEIC L&Rテストで550点以上を目指す。TOEICの受験勉強を通して、ビジネスで必要となる英語実践力を幅広く身に付ける。具体的にはボキャブラリーの増強、リスニング能力の向上、ビジネス文書の読解能力、およびさまざまな状況での会話表現である。中間試験、期末試験に加えて、頻繁に小テストが課される。さらに、ビジネス語彙を含んだ会話文・アナウンス文の暗唱発表も求められる。自ら積極的に学習することが求められる。	
TOEIC演習C		中級レベルの英語力を定着させ、TOEIC L&Rテストで600点以上を目指す。TOEICの受験勉強を通して、ビジネスで必要となる英語実践力を幅広く身に付ける。具体的にはボキャブラリーの増強、リスニング能力の向上、ビジネス文書の読解能力、およびさまざまな状況での会話表現である。中間試験、期末試験に加えて、頻繁に小テストが課される。さらに、ビジネス語彙を含んだ会話文・アナウンス文の暗唱発表も求められる。自ら積極的に学習することが求められる。	

		TOEIC演習D	中級レベルの英語力を定着させ、TOEIC L&Rテストで650点以上を目指す。TOEICの受験勉強を通して、ビジネスで必要となる英語実践力を幅広く身に付ける。具体的にはボキャブラリーの増強、リスニング能力の向上、ビジネス文書の読解能力、およびさまざまな状況での会話表現である。中間試験、期末試験に加えて、頻繁に小テストが課される。さらに、ビジネス語彙を含んだ会話文・アナウンス文の暗唱発表も求められる。自ら積極的に学習することが求められる。	
		TOEIC演習E	上級レベルの英語力を定着させ、TOEIC L&Rテストで700点以上を目指す。TOEICの受験勉強を通して、ビジネスで必要となる英語実践力を幅広く身に付ける。具体的にはボキャブラリーの増強、リスニング能力の向上、ビジネス文書の読解能力、およびさまざまな状況での会話表現である。中間試験、期末試験に加えて、頻繁に小テストが課される。さらに、ビジネス語彙を含んだ会話文・アナウンス文の暗唱発表も求められる。自ら積極的に学習することが求められる。	
		TOEIC演習F	上級レベルの英語力を定着させ、TOEIC L&Rテストで800点以上を目指す。TOEICの受験勉強を通して、ビジネスで必要となる英語実践力を幅広く身に付ける。具体的にはボキャブラリーの増強、リスニング能力の向上、ビジネス文書の読解能力、およびさまざまな状況での会話表現である。中間試験、期末試験に加えて、頻繁に小テストが課される。さらに、ビジネス語彙を含んだ会話文・アナウンス文の暗唱発表も求められる。自ら積極的に学習することが求められる。	
展 開 科 目	学 科 共 通 展 開 科 目	Study Abroad English A	アメリカ合衆国、カナダ、イギリス、オーストラリア等の英語圏への留学を希望する学生を対象に、TOEFLとIELTSで高いスコアを取ることを目指し、英語力の強化と試験対策を行う。それぞれの試験の出題傾向をふまえて、ボキャブラリー、英文法、スピーキング、ライティング、リスニング、リーディングについて学ぶ。難解なIELTSのライティングとスピーキングについては、時間をかけ、面接試験の練習も行う。学期末には、TOEFL、IELTSそれぞれの模擬試験を受験する。授業は英語で行う。	
		Study Abroad English B	アメリカ合衆国、カナダ、イギリス、オーストラリア等の英語圏への留学を予定している学生を対象に、留学が有意義で充実したものになるように、必要となる学習スキルを身に付けることを目指す。具体的には、英語による講義の要点の把握、リーディング（多読、速読、精読）、ノートテイキング、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの準備と実施、英語によるエッセーの整った書き方等が含まれる。留学予定の学生の熱心な参加が求められる。授業は英語で行う。	
		日米比較研究	日米の政治・歴史・文化について学ぶ。そのために、両国の比較を通して、それぞれの政治制度や文化の持つ特性や類似点を理解することを目指す。前半では、日本国政府とアメリカ連邦政府を中心に日米関係史を学ぶ。後半では、宗教政策や移民政策、女性の権利運動など個別具体的なトピックを学ぶ。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。授業内容についてのコメントシート提出が頻繁に求められる。	
		通訳入門	プロの通訳養成のメソッドであるラギング、シャドーイング、リテンション、サイト・トランスレーションなどを、国際英語学科の学生のレベルに合わせて調整し、その上で、通訳者としての基礎的な訓練を行い、高いレベルの英語力の習得を目指す。教室で取り上げる内容は、観光、ビジネス、政治、社会、文化など、多岐にわたり、訓練を通して関連知識や教養も深める。英語から日本語、および日本語から英語の両方の通訳訓練に取り組むほか、単語テストを毎回実施し、語彙力も増強する。	

翻訳入門		ニュース、小説、絵本をはじめとする様々な分野について、実践的な翻訳訓練を行う。最初に、クラス全体で課題文の翻訳を行い、分野ごとの重要ポイントや注意事項を検討する。その後、いくつかの短文の翻訳練習問題によって学んだ知識を定着させる。さらに、グループで課題に取り組み、出来上がったものを提出する。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。	
英語教育研究A		英語教育学の基本的な研究テーマや学術概念を学ぶとともに、第二言語習得理論の基礎を理解する。母語習得と第二言語習得、母語の転移と言語間の距離、第二言語で読むこと、書くこと、コミュニケーション・コンピタンス、外国語適性とパーソナリティ、第二言語習得と動機づけ、臨界期仮説、児童英語教育といったテーマを扱う。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
英語教育研究B		言語習得の理論として行動主義、生得主義、相互交流主義について学んだ上で、第二言語習得における行動主義、生得主義、相互交流主義について理解を深める。さらに、これらの第二言語習得理論を基にした外国語教授法を理解する。また、外国語(英語)授業の枠組みと授業を成り立たせるための主要な指導法を学ぶ。授業は、配布資料、視聴覚教材を用いて行う。講義の他に、授業内タスクや課題の発表を行い、授業外でレポートが課される。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
言語文化プロジェクト (海外)		人間にとってことばとは何か、人々の暮らしとことばはどのように結びついているかを体験的に学ぶことを目指す。そのために、言語文化学の基礎を学んだうえで、海外調査地での研修およびフィールドワークを行う。「ことばと文化」、「ことばと環境」、「言語多様性」、「危機言語」、「少数言語」、「国際英語(World Englishes)」、「移民の言語」、「多文化共生」等をキーワードに、学生自ら研究テーマを設定し、主体的に調査を行う。研究成果をレポートにまとめることが求められる。	隔年
言語文化プロジェクト (国内)		人間にとってことばとは何か、人々の暮らしとことばはどのように結びついているかを体験的に学ぶことを目指す。そのために、言語文化学の基礎を学んだうえで、国内調査地での研修およびフィールドワークを行う。「ことばと文化」、「ことばと環境」、「言語多様性」、「危機言語」、「少数言語」、「移民の言語」、「言語政策と外国語教育」、「多文化共生」等をキーワードに、学生自ら研究テーマを設定し、主体的に調査を行う。研究成果をレポートにまとめることが求められる。	隔年
Expressive English A		留学から帰国した学生を対象とする。専門分野に関わるテーマについて英語で会話、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどを行うことを通して、留学で身に付けた高い英語力と発信力を維持・向上させていく。取り上げるトピックは、ビジネスにおけるリーダーシップ、学際的学問分野の取り組み、食と健康、都市計画等で、それぞれについて、学生は自分の意見を明確に述べる事が求められる。学期末にはまとめとしてプレゼンテーションに取り組む。授業は英語で行う。	
Expressive English B		留学から帰国した学生を対象とする。専門分野に関わるテーマについて英語で会話、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどを行うことを通して、留学で身に付けた高い英語力と発信力を維持・向上させていく。取り上げるトピックは、DIYと技術、環境主義と農業ビジネス、ビジネスと博愛主義、健康と心理学等で、それぞれについて、学生は自分の意見を明確に述べる事が求められる。学期末にはまとめとしてプレゼンテーションに取り組む。授業は英語で行う。	

	Intellectual History of Europe		近現代ヨーロッパを理解することを目標に、以下の内容を探求する。古代から中世までの思想史を通して、グレコ・ローマ文明から現代までのヨーロッパの主要な知的、文化的、芸術的潮流を詳細に探る。ヨーロッパの知的・芸術的起源を理解した上で、現代ヨーロッパ社会や西洋思想の基本的な価値観、規範、知的基盤の形成に焦点を当てる。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。講義は英語で行う。	隔年
	Europe and Its Changing Role in the World		ヨーロッパが歴史的にいかに関与してきたかを経済、社会、文化の観点から理解することを目指す。特に、世界と新しい形で関係を持つ政治的組織としてEUに焦点を当てて考察する。ヨーロッパの戦略的立場、貿易活動、そして歴史的發展を分析することで、ヨーロッパがなぜ世界にとって重要なのか、そしていかにその歴史を形成したのかを考える。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。講義は英語で行う。	隔年
	アメリカ経済論		連邦政府を中心にアメリカ合衆国の経済政策について学ぶことを通じて、アメリカにおける経済事情について理解することを目指す。現代までつながる合衆国の経済政策の歴史的視座と思想的連続性を学ぶ。連邦共和国の誕生、大陸規模の民主主義の成立と展開、共和国存続の試練、革新主義とその遺産、ニューディールと第二次世界大戦、リベラル派の夢と挫折、保守の対応と政治的再編成、グローバル化とその反動、等のトピックを深く考察する。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。授業内容についてのコメントシート提出が頻繁に求められる。	
	アメリカ社会論		アメリカ合衆国の政治・思想を学ぶことを通じて、アメリカ社会の現状を理解することを目指す。連邦政府に注目して合衆国の政治制度（大統領制、三権分立の考え方）を学び、現在論争となっているトピックである、人種、宗教、フェミニズム、LGBTQ、エスニシティ等の社会問題を深く考察する。さらに、映像鑑賞の機会も設ける。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。授業内容についてのコメントシート提出が頻繁に求められる。	
英米文化研究コース展開科目	イギリス文化概論	○	現代イギリスの文化と社会の諸相について、英文テキストを読みながら理解を深めていく。主なトピックは、「イギリスの諸地域」、「イギリス社会に見られる分断」、「多文化社会化」、「階級の問題」、「教育」、「芸術文化」、「紅茶の歴史」、「女性の活躍」、「科学技術」等である。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目
	イギリス文学概論	○	イギリスの歴史を、古代、中世、16世紀、17世紀、18世紀、19世紀、20世紀の時代に区分し、それぞれの時代に特徴的な文化や思潮と文学作品について理解することを目指す。とくにシェイクスピア、オースティン、ディケンズの作品については、映像を鑑賞し、引用箇所を詳しく検討する。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目
	アメリカ文化概論	○	今日アメリカ合衆国と呼ばれる場所で生活する人々が、15世紀終わり以降、現代に至るまでに経験してきたことについて理解することを目指す。具体的には、人々の多様性と、人種・ジェンダー・セクシュアリティ・階級による権力の不均衡とに注意を払いながら、アメリカ社会・文化の形成過程を考察する。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目

アメリカ文学概論	○	植民地時代から現代まで、アメリカ社会の文化的な変遷を反映しているアメリカ文学の代表的な作家と作品について、詩、演劇、小説を通じて、時代背景とともに理解することを目指す。ピューリタニズムと啓蒙思想、アメリカン・ルネサンス、リアリズムとナチュラリズム、ロスト・ジェネレーション、モダニズム、ポストモダニズムなどのトピックで考察を深めていく。また、マイノリティの文学についても取り上げる。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目
文学理論研究		エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』を題材にして、文学作品の様々な研究方法と批評理論について理解することを目指す。小説の語りの技法、登場人物論、歴史的・伝記的研究、新批評、神話・原型批評、フェミニズム批評等が主なトピックである。『嵐が丘』を細部にわたってしっかり読むことが求められる。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
文化理論研究		文化の定義をふまえた上で、文化を研究するための基本的な考え方として、構造主義、記号論、権力論、メディア論、歴史記述を考察する。さらに、近年盛んに行われているカルチュラル・スタディーズ（文化研究）とポストコロニアル研究について理解を深める。この授業では、英米文化の個々の具体的な側面というよりはむしろ、文化全般に共通する問題点やその研究のための考え方に焦点を当てる。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
英語圏の映像文化		映画の歴史を概観しつつ、主にイギリス、アメリカをはじめとする英語圏の映画における人、モノ、事件の表象のされ方とそこに潜むイデオロギーを批判的に分析しながら、その映画が作成された時期の社会・政治・経済・文化における主要な問題について理解することを目指す。授業は講義形式で行うが、途中でグループワークやディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	隔年
英語圏の芸術文化		主にイギリス、アメリカをはじめとする英語圏の美術と音楽に焦点を当て、代表的な作品の特徴を学ぶとともに、各作品が作成された時代や社会についての理解を深め、作品に表象された事柄とそこに潜むイデオロギーを批判的に分析する。授業は講義形式で行うが、途中でグループワークやディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。また実践課題を課し、学生に実際に作品を提出してもらう。	隔年
Power, Imperialism, and Language		21世紀の日本において、「英語ができるようになりたい」と多くの人々が感じ、「英語を話せる」ということを多くの人々が肯定的に捉えるような事態が、なぜ、どのように起きたのかを理解することを目指す。そのために、英語が世界言語としての地位を確立してきた過程を歴史的に考察する。その時、イギリスとアメリカ合衆国という二つの帝国が、世界において政治的・経済的・文化的な影響力を強めながら、支配的な地位を確立した過程に焦点が当てられる。講義の途中でディスカッションの時間を設け、学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことにより、新たな考えや発見につながることを目指す。講義は英語で行う。	隔年
Japan's Relations with the U.S. and Great Britain		19世紀なかばの日本の「開国」以来、150年以上の歴史を持つ日本とアメリカ合衆国、そして日本とイギリスとの関係がどのように構築されてきたのかを理解することを目指す。そのために、それぞれの国における、政治、経済、社会、文化の歴史的变化にも注意をはらいながら考察する。その時、国家間の関係だけでなく、人・モノ・カネ・思想の移動・交流・影響も議論の対象となる。講義の途中でディスカッションの時間を設け、学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことにより、新たな考えや発見につながることを目指す。講義は英語で行う。	隔年

英語研究 コース 展開 科目	英語構造研究(1)	○	生成文法の統語理論の観点から英語の文構成のメカニズムについて理解することを目指す。具体的には、文構成において基本となる統語構造の重要性と性質を理解することを目指し、そこで必要になる構成素、統語範疇、句構造規則、単文と複文の区別といった専門的概念と規則について学ぶ。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目
	英語構造研究(2)	○	「英語構造研究(1)」の内容をさらに発展させ、英語の文構成のメカニズムとして項構造と変形規則について理解することを目指す。文の基本構造は述語の項構造と意味役割により決まること、さらに、句構造規則によって生成された構造を変化させる変形規則があることを学ぶ。そして、単純な変形規則の組み合わせにより、複雑な文が生成されることを見る。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	主要授業科目
	英語音声研究(1)		調音音声学の観点から英語の音声体系を体系的に学ぶ。子音と母音の発音のメカニズムを学び、英語の個々の音について特徴を理解した上で、音声面での「英語らしさ」とは何かを考えていく。また、日本語と英語の比較をし、英語音声に関する理解を深めるとともに、実際に発音の練習をすることで英語の発音を身に付けることも目指す。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
	英語音声研究(2)		「言語の知識」の音声面に注目し、私たち人間が音に関して何を知っているのかを理解することを目指す。英語やその他の言語に見られる音韻現象を取り上げ、「英語音声研究(1)」で得た知識を使って言語にどのような規則性があるのかを探り、その規則性を説明する音韻規則について考える。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
	言語コミュニケーション理論A		言語コミュニケーションに関する基礎的な概念について理解することを目指す。コミュニケーションとは何か、言語によるコミュニケーションの特徴はどのようなものかについて学ぶ。学生各自が自分の日常生活において行っている普段のコミュニケーションについて振り返り、英語と日本語を中心にコミュニケーションの本質について考察する。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	隔年
	言語コミュニケーション理論B		語用論に関する理解を深めることを目標とする。そのために、ダイクシス、会話の含意、発話行為といった語用論の基礎概念を順に学んでいく。授業は講義と学生による発表を組み合わせで行う。学生による発表では、担当学生がそれぞれのテーマについてテキストおよび配布資料を読んで理解した内容をまとめて発表する。それについてクラス全員で議論し理解を深める。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	隔年
	言語習得研究A		外国語学習におけるリーディング能力の向上について、言語習得の観点から理解することを目指す。そのために、第一言語、第二言語それぞれのリーディングに関する主要な先行研究を通して基礎的な事項を学び、自らの考察を加えていく。講義のほかに、多読などの授業内タスク、小テスト、および授業外の課題にも取り組む。また、授業の途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	隔年

	言語習得研究B	本授業を通して、第二言語習得理論の基礎および発展的なテーマについて理解し専門性を高める。まず、母語の習得の特徴について学び、第二言語の習得が母語の習得とどのように異なるかを理解する。その上で、第二言語習得を説明する理論について学ぶ。さらに、第二言語習得研究の様々な研究方法を理解する。授業は講義形式で行うが、授業の途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	隔年
	English in Society	社会において英語がどのように用いられているのか、どのような役割を果たしているのか、社会的な要因によってどのように変化するか、などを社会言語学の観点から理解することを目指す。社会言語学の入門書を英語で精読しながら、性別・階級・地域・人種等によって生じる言語学上の差異を学ぶ。授業は講義形式で行うが、小グループでの英語によるディスカッションにも繰り返し取り組む。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。講義は英語で行う。	隔年
	Corpus Linguistics	書き言葉や話し言葉の資料を体系的に収集したデータベースであるコーパスについて理解を深めるとともに、コーパスを用いた研究について学び、学生自身がコーパスを用いて言語研究を行うことを目指す。英文法書に書かれた規範文法では説明できない現実の言語現象を研究する。これに関して英語で書かれた既存の研究を精読し理解した上で、社会に見られる多様な英語表現を各自で見つけ、コーパスを用いて類例を収集し分析する。授業は講義形式で行うが、授業の途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。講義は英語で行う。	隔年
英語スペシャリスト養成プログラム展開科目	翻訳演習（1）	「翻訳入門」で翻訳の基礎を習得した学生を対象に、実際の翻訳業務に近い内容の題材を使用して実践的な演習を行う。あわせて、翻訳業界についての事情を知り、将来的なキャリア形成の手掛かりとする。グループワークでの翻訳作業とディスカッションを通じ、原文を正確に読み取る力と読みやすい訳文を作る表現力を身に付ける。授業では、ビジネス書、ニュース記事、小説、児童文学、実務文書等を素材に和訳に取り組む。翻訳に役立つさまざまな英語辞書の活用法も解説する。	
	翻訳演習（2）	「翻訳入門(1)」に引き続き、実際の翻訳業務に近い内容の題材を使用して実践的な演習を行う。グループワークでの翻訳作業とディスカッションを通じ、原文を正確に読み取る力と読みやすい訳文を作る表現力を身に付ける。「翻訳演習(1)」で学んだ「原文への忠実さと訳文の自然さとの葛藤」をふまえ、完成度の高い翻訳を目指す。授業では、ドラマシナリオ、法律文書、小説、産業字幕、広告コンテンツ等を素材に和訳に取り組むほか、小説については英訳も取り上げる。	
	翻訳プロジェクト	翻訳のさまざまな側面について学ぶとともに、翻訳の基礎理論に関する文献を英語原書で読む。その上で、実践として、英語の本を翻訳し製本する。グループで本を1冊選び、100ページ以上の翻訳本に仕上げる。それぞれのグループが、翻訳上工夫した点や困難を感じた点などについてプレゼンを行い、教員の指導を受けるとともにクラスで意見を交換する。また、多様な分野の翻訳課題についてブレイン・ストーミングと相互評価を行い、翻訳プロダクトの改良を重ねて、完成度の高いものを仕上げる。	
	通訳演習（1）	通訳という仕事について、その歴史的背景や、仕事の種類・形態、求められる資質・能力などについて多面的に学び、通訳の本質を理解する。また、プロの通訳トレーニング・メソッドについて、その科学的根拠や効用を学び理解したうえで、実際にトレーニングを行う。トレーニングとして、友人、家族、スポーツなど身近なトピックを取り上げ、英日、日英通訳、および対談通訳の練習を行う。新聞コラムの英訳の課題、単語テストが課される。	

	通訳演習(2)	「通訳演習(1)」で学んだ基本的なトレーニング・メソッドに従って通訳の練習を行うとともに、それらのメソッドをさらに高度にしたパターンについて学ぶ。かなり長い文の逐次通訳が出来るようになるとともに、同時通訳の基本的手法についても触れる。社会問題や観光等のトピックを取り上げ、インタビューやスピーチに焦点をあてて、英日、日英通訳、および対談通訳の練習を行う。新聞コラムの英訳の課題、単語テストが課される。	
	通訳演習(3)	「通訳演習(1)」「通訳演習(2)」で習得した通訳技術をさらに発展させ実践力を養う。授業を通じて、英語的資質、英語・日本語運用能力、思考力、論理性、コミュニケーション能力の向上を目指す。個々の逐次通訳スタイルに磨きをかけるとともに、本格的な同時通訳ブースを使った練習も取り入れながら、同時通訳の技能を身に付けていく。授業では、英語から日本語、日本語から英語の双方について、逐次通訳と同時通訳の訓練を重ねていく。ブックレポート提出の課題が課される。	
	通訳演習(4)	通訳技術をさらに発展させ実践力を養う。授業を通じて、英語的資質、英語・日本語運用能力、思考力、論理性、コミュニケーション能力の向上を目指す。個々の逐次通訳スタイルに磨きをかけるとともに、本格的な同時通訳ブースを使った練習も取り入れながら、同時通訳の技能を身に付けていく。同時通訳つきシンポジウムへの取り組みも行う。授業では、英語から日本語、日本語から英語の双方について、逐次通訳と同時通訳の訓練を重ねていく。ブックレポート提出の課題が課される。	
	通訳プロジェクト	通訳の訳出方略、異文化コミュニケーションとしての通訳の諸理論、通訳に必要な情報収集方法などを学ぶ。また、様々な音声教材や配布教材を使い、シャドーイング、クイック・レスポンス、サイト・トランスレーションの訓練をし、逐次通訳と同時通訳の練習をする。その上で、同時通訳付きの模擬国際会議や講演会などのイベントを企画し運営する。国際情勢や社会問題を意識したテーマを学生が決定し、テーマに関する調査を十分行うとともに、同時通訳の準備や練習を本格的に行い、聞き手を意識したパフォーマンスに仕上げる。	
キッズ・イングリッシュ・プログラム展開科目	早期英語教育研究	子どもの言語習得から学習に至るまでの過程や従来の早期英語教授法について学んだ上で、どのような教え方が幼児・児童を対象とした英語教育に効果的かを理解することを目指す。また、ビデオによるモデルレッスンを鑑賞し、レッスンプランの立て方およびクラス・マネジメントについても考察する。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
	早期英語教育教材研究	子どもに英語を教えるために効果的な教材の使い方について理解することを目指す。すでに出版された教材や学生自身が作成した教材について、教育現場での活用法を検討し、実際にそれをを用いて子どもに英語を教える訓練を行う。授業内でワークショップ形式のプロジェクトが、ストーリーブック、歌、ゲーム等をトピックに実施される。プロジェクトは、レッスンプランを入念に準備した上で行われ、録音がなされる。各プロジェクトは、授業担当者と他の学生からの批評を受け、改善につなげる。授業は英語で行う。	
	Classroom English	絵画、工作、スキット、ロールプレイ、ゲームなどを通じて、挨拶、指示、質問、激励など子供に教えるための英語表現を学び、レッスンの訓練を行うことで、教授技術を高める。レッスンの訓練は3週間のプロジェクト形式で行い、各プロジェクトにおいて、担当者と学生から批評を受け、改善につなげる。各プロジェクトでは、学生はレッスン計画を作成するとともにレッスンを録音し、それらを提出する。また、語彙力をつけるために、授業で使われる英語表現の小テストを頻繁に行う。授業は英語で行う。	

	早期英語教育実習	「早期英語教育研究」で学んだ理論をもとに、児童英語講師としての実践力を身に付けることを目標とする。早期英語教育に効果的な教授法に基づいてレッスンプランをたて、ティーチングの練習を行った上で、教育現場での実習を行う。現場で現役の児童英語講師によるレッスンを見学した後、教室で学生を子供に見立てた模擬レッスンをを行うとともに、幼稚園、小学校、英会話スクールなどで実習を行う。それらの後にはフィードバックおよび評価を行う。模擬レッスンや実習のための事前の準備が非常に重要になるため、学生の積極的な授業参加が求められる。	
	小学校英語	英語活動の目的、意義、指導法を学び、小学校英語指導者としての基礎知識と実践力を身に付けることを目標とする。小学校英語指導者としてのカリキュラム項目を網羅して学習する。授業は講義と実践形式で行う。課題やレッスン発表等、学生の積極的な授業参加を通じて、小学校英語指導者への理解を深めるとともに実践力を高める。講義と実践形式の授業に加えて、ディスカッションの時間も設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視する。	
エアラインプログラム展開科目	English for Hospitality	航空会社客室乗務員やグラウンドスタッフが航空機内・空港内で使う丁寧な英語「敬語の英語」を会話形式の演習授業を通して身に付けることを目指す。以下のトピックを中心に学んでいく。すなわち、接客英会話の基礎、基本的な航空用語、フライト情報の打ち合わせ、世界遺産についての英語による案内、機内での飲食サービスにおける英語等である。授業では、ロールプレイングとプレゼンテーションを実施し、授業外では機内英会話の暗唱、専門用語の知識を深めることが求められる。	
	コミュニケーションスキル	企業が採用活動の過程で特に重視されると言われている「コミュニケーション能力」を実践を通して体得していく。また、日本のおもてなしの心を学び、多様性を尊重する国際社会で求められる真のコミュニケーションスキルとは何かを理解する。以下のトピックを中心に学んでいく。すなわち、聴き方・話し方のスキル、援助が必要な方のコミュニケーション、ビジネスマナーの基礎、SDGs、適切な言葉遣い、電話応対、日本の伝統文化である。	
	エアラインビジネス論	航空産業の特性、現状や将来について幅広く学ぶとともに、エアラインの業務内容やビジネス戦略を理解する。また、航空輸送サービスを産業、市場、および政策という側面からとらえ、世界視野で同ビジネスと今後の展望や課題を認識し、業界に関する知識を習得する。以下のトピックを中心に学んでいく。すなわち、世界と日本の航空事情、航空産業の歴史、客室乗務員のリーダーシップ、ローコストキャリア、マーケティング、貨物事業、運行管理、航空の安全、空港整備、将来のエアラインビジネスである。	
	エアラインサービス論	日本のエアライン業界の現状と動向、航空会社の業務内容、さらに、COVID-19後のニューノーマルの時代に向けて変革を求められているエアラインの現場を知り、理解を深めていく。さらに、エアラインが果たす具体的な役割や多様性を尊重するサービスについて理解する。以下のトピックを中心に学んでいく。すなわち、航空業界の専門用語、飛行機と空港に関する知識、客室乗務員の仕事、機内サービス、グラウンドスタッフの仕事である。	
	ホスピタリティ論	ホスピタリティについて総合的な理解を深めるために、エアラインに加えテーマパークやホテルなどの事例を通じて、各企業のホスピタリティ戦略を学ぶ。さらに、人と人とのコミュニケーションにおいては、ホスピタリティの心を表現することが重要であることから、実践的な要素も併せて学んでいく。ケーススタディとして以下の現場でのホスピタリティを取り上げる。すなわち、エアライン、ホテル・旅館、テーマパーク、ファストフードである。さらにテクノロジーとホスピタリティなど最新のトピックについても理解を深める。	

	サービスコミュニケーション論	サービス業界で求められる質の高いコミュニケーション能力を身に付けることを目指す。エアラインを含め様々な業界の採用試験の可否を左右する面接マナーを、多角的な視点で分析し演習する。社会人として必要な一般常識や基礎知識を理解する。以下のトピックを中心に学んでいく。すなわち、自己分析、エントリーシートの書き方、面接でのマナー、スピーチの仕方、敬語の使い方である。一朝一夕には身に付かない「面接マナー」については、毎回の授業後復習・実践することが求められる。また、一般教養「時事問題」等については日頃から最新情報を入手し、多角的視野で掘り下げて考える習慣を身に付けておくようにすることが望ましい。	
	サービスコミュニケーション演習	エントリーシートや面接対策に必要な「自己分析」を行うことにより自己理解を深め、将来に対する思いや理想を一層深くする。スピーチ実践で人前で話すことに慣れ、伝える力を磨く。模擬面接・グループディスカッション等の演習授業を通してサービス業界で求められるコミュニケーションスキルを培う。多様性を尊重する社会のなかで活躍する真のコミュニケーション能力を身に付けるための演習を行う。学生には次のことが求められる。(1)復習・実践を通してコミュニケーションスキルを身に付けること。(2)社会人としての一般常識を定着させ、航空業界で働くうえで求められる資質まで高めるよう日々学習すること。(3)時事問題を自分の事と結び付けて考える習慣を身に付けること。(4)テーマを決めてスピーチ実践を反復練習すること。	
	エアライン実地研修	JAL産学連携における現役日本航空社員による指導のもと「課題解決型学習」を行う。COVID-19後のニューノーマル時代に向けて変革を求められているエアラインの現場を理解し学ぶ。さらにSDGsの達成や地域活性化などの社会課題の解決においてエアラインが果たす役割をグループワークを通して考察し発表する。また、フィールドワークでは国際空港で実際に働く社員と接することにより、自身のキャリアマインドを醸成する。	
観光プログラム展開科目	観光学研究A	観光学の基礎的な理論、観光の歴史、観光学のキーワード、現代の観光現象について学ぶ。観光学と文化研究の関わりも重視し、「観光のまなざし」、「観光景観」、「真正性」等のトピックについても理解を深めていく。さらに、多様化するオルタナティブツーリズムや深刻化するオーバーツーリズムの問題など、現代の観光をめぐる状況にも目を向ける。講義の途中でディスカッションの時間を設け、学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことにより、新たな考えや発見につながることを目指す。	
	観光学研究B	海外の観光地事情（文化・世界遺産・テーマパーク）を学び、さらに出入国・航空券など総合旅行業務取扱管理者試験の海外旅行実務科目対策も兼ねた実務的な知識を身に付ける。学期の前半では、アジア、ヨーロッパ、北米を中心に観光地の理解を深める。後半では、航空・鉄道事情や観光実務を学ぶ。授業は講義形式で行うが、途中でディスカッションの時間を設ける。学生が自分で考え、発言し、意見交換を行うことを重視し、新たな考えや発見につながることを目指す。	
	観光学プロジェクト	「観光学研究A」、「観光学研究B」での学びをもとに、現代の観光需要を意識しながら魅力的なツアープランを作成する。学生は、観光地、交通機関、宿泊施設、食文化等を自ら調査し、これらを吟味しながらツアープランに組み入れていく作業に取り組む。商品化できるようなプランの提案を目標とするため、観光ビジネスについても学ぶことになる。教室で学生は個人またはグループでツアープランを発表し、それについてディスカッションを行う。	
	観光学実地研修A	この授業では、「観光学実地研修B」に参加するための事前準備を行う。そのために以下の内容を学ぶ。すなわち、研修地で必要となるコミュニケーション英語、渡航先の国の地理・文化・歴史・経済・社会、研修で必要となる知識・情報のインターネット等による入手方法、研修に役立つパソコン等機器の使用技術である。資料作成のための技術やプレゼンテーションスキルも身に付ける。さらに、海外でのリスク管理について学び、渡航に関する手続きを行う。	

	観光学実地研修 B		この授業では、「観光学実地研修 A」で英語コミュニケーション能力を培い、研修地がある渡航先の国について学んだ後に、観光、ホスピタリティ、または航空業界に関わる実地研修を海外で行う。海外で実施することにより、異文化を体験することを通して語学力と自立心を高め、職業研修によりプロとして責任を意識することを目指す。研修後には、感想と成果をレポートにまとめること、スライドを用いたプレゼンテーションを行うことが求められる。	
英語 ビジネス プログラム 展開科目	経営戦略論 A		経営戦略の基本概念と理論を理解することを目指す。経営戦略には、個別の事業を対象とする事業戦略（競争戦略）と、複数の事業の編成を対象とする全社戦略があるが、それぞれケーススタディやディスカッションを通じて、理論と実務の関連性を学ぶ。特に経営環境の変化に対応した戦略策定の重要性を強調し、学生が戦略的思考を身に付けることを重視する。最終的には、経営戦略の基礎を固め、実践的な経営判断を下すための土台を築くことを目指す。学生は、理論的な知識とその応用能力を身に付け、企業の戦略的課題に対する洞察力を養うことが求められる。	
	経営戦略論 B		経営戦略を実践的なアプローチによって考える授業である。経営戦略の策定と実行に焦点を当て、実際の企業事例を用いて具体的な戦略プランニングとその実行プロセスを学ぶ。M&A、アライアンス、リストラクチャリングなどの応用的テーマを取り扱い、現実のビジネス環境で直面する課題に対処するスキルを養う。学生は理論を実務に応用する力を身に付け、実践的な経営戦略を立案・実行する能力を高めることを目指す。最終的には、企業の競争力を高めるための具体的な戦略を設計し、実行するためのスキルと知識を習得することを目指す。	
	女性起業論 A		「起業」を社内外でのもの、社会課題解決に向けたもの、副業的なものなど包括的に捉え、それを構想し実現させるまでの過程について熟達することを目的とする。特に「女性起業論 A」では、起業そのものへの当事者性や実感を得ることを目的とする。そのため、起業が自身のキャリアについてなぜ必要か、自身の持つ人的資源は起業にどう有益に働くのかを理解することを出発点とする。その上で、アイデアの掘り起こし、デザイン、ブラッシュアップについて学び、それを公表することを到達点とする。	
	女性起業論 B		「起業」を社内外でのもの、社会課題解決に向けたもの、副業的なものなど包括的に捉え、それを構想し実現させるまでの過程について熟達することを目的とする。特に「女性起業論 B」では、起業のスタートアップから成長の過程に至る上でのマネジメント、ビジネスモデル、マーケティング、および資金調達について、実践的な内容にフォーカスした授業をおこなう。本授業において学生は起業を前提とした事業計画を策定し公表し、そのことにより起業を経験的に理解することを到達点とする。	
	ビジネス実践プロジェクト A		主にスモールビジネスを想定し、ビジネスプランニングの基本的な手続きに沿い、主にグループワーク形式にてプランを作成することをねらいとする。具体的には、ビジネスアイデアとコンセプトの設定、確保できる資源（人脈、時間、スキルなど）の棚卸し、ターゲットの設定、スケジューリング、成否の物差しの設定などを、わかりやすく提示できるよう授業を行う。策定したプランは在学中に事業化させることを前提に、まずは授業内でプレゼンテーションを行い、続いてその一部または全部を外部のビジネスプランコンテストに応募する。	
	ビジネス実践プロジェクト B		主にスモールビジネスを対象とし、試行錯誤を通じて製品やサービスを創出することを目的とする。具体的には、グループワークを基本に、ターゲットグループへのインタビューを実施し、必要なサービスに対する理解を深める。その上で、デザイン思考の EDIPT（理解共感、問題提起、アイデア出し、試作、テスト）サイクルに基づいてアイデアを発展させる実践を行う。授業の到達点として、具体的な試作品や試行的なサービスをテストし、その結果を振り返ることを目指す。これにより、実践的なビジネススキルの向上を図る。	

	ビジネス英語A		ビジネスの現場で求められる英語コミュニケーション能力のうち、ビジネス英会話を中心にスピーキング力を重点的に習得する。そのために、ビジネスで必要となる基本的な会話表現を聞き取り覚え、それを自ら発話する練習を重ねていく。教室内に様々なビジネスシーンを再現し、教員と学生、または学生同士の対話練習を行い定着を目指す。以上に加えて、英語で書かれたビジネス文書の読解やビジネスのためのeメールの書き方の基礎的な指導も行う。	
	ビジネス英語B		ビジネスの現場で求められる英語コミュニケーション能力のうち、ビジネス英会話を中心に高いレベルのスピーキング力を重点的に習得する。ビジネスで必要となる多様な会話表現を聞き取り覚え、それを自ら発話する練習を重ねていく。教室では、教員と学生、または学生同士の対話練習を行い定着を目指すほか、ビジネスシーンを想定して英語によるプレゼンにも取り組む。以上に加えて、英語で書かれたビジネス文書の読解やビジネスのためのeメールの書き方の指導も継続して行う。	
	ビジネス英語C		ホテル、レストラン、店舗などでの接客に用いられる英語を中心に、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。接客の個々の場面で用いられる会話表現を聞き取り覚え、それを自ら発話する練習を重ねていく。教室では、教員と学生、または学生同士でロールプレイングによる対話練習を行って定着を目指す。以上に加えて、ホテル、レストラン、店舗に関わる英文の読解やこれらに關係する英語によるeメールの書き方の指導も行う。	
	ビジネス英語D		海外取引や貿易に必要なビジネス英語を中心に、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。個々のビジネスシーンで用いられる会話表現を聞き取り覚え、それを自ら発話する練習を重ねていく。教室では、教員と学生、または学生同士でロールプレイングによる対話練習を行って定着を目指すほか、ビジネスシーンを想定して英語によるプレゼンにも取り組む。海外取引や貿易に関わる英文の読解に加え、英語によるビジネスメール、履歴書、カバーレター等の作成も指導する。	
演習科目	基礎演習(1)	○	スタートアップゼミナールとして、国際英語学科の学生にとって授業内外でこれから必要となる学習の技術を身に付けることを目指す。具体的には、英語学習の方法、図書館の利用法、各種英語検定試験の受験勉強の進め方、英語辞書・専門事典の活用法、ノートテイキングの技法、日本語によるレポートの書き方などの内容が含まれている。以上に加えて、レベルの高い英文を正確に読みこなすためにリーディングの時間も設ける。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目
	基礎演習(2)	○	国際英語学科の学生にとって必要となる学習の技術を身に付けることを目指す。具体的には、研究テーマの選定、研究に必要な文献の収集、文献の分析、アウトラインの作成、プレゼンテーションの実施、レポートの執筆と推敲である。以上に加えて、レベルの高い英文を正確に読みこなすためにリーディングの時間も設ける。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目
	専門演習(1)	○	英米文化研究、英語研究それぞれのコースの専門分野の文献(英語、日本語)を正確に読みとり、その要旨を把握する力を身に付けることを目指す。コース別にクラスを設置する。学期前半では各クラスの受講者全員が同じ文献に取り組み読解の技術を習得する。学期後半では受講者それぞれが見つけた文献の内容を発表する。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目

専門演習（2）	○	英米文化研究、英語研究それぞれのコースの専門分野の文献（英語、日本語）を批判的に読む力を身に付けることを目指す。受講者はみずから関心を持ったテーマについて複数の文献を見つけ、それらと比較しながら問題点を考察する。学期後半では各受講者が研究発表を行い、その内容をレポートにまとめる。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目
専門演習（3）	○	英米文化研究、英語研究それぞれのコースで小人数のクラスを設置し、専門についての研究技法を習得する。そのために、受講者は研究テーマの設定、研究計画の立案、先行研究の収集とその分析に取り組む。授業担当者が定めたクラス全体のテーマのもとで、受講者は自らの研究を進めていく。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目
専門演習（4）	○	英米文化研究、英語研究それぞれのコースで小人数のクラスを設置し、専門についての研究技法を習得する。先行研究の分析をもとにした自らの考察の発表と教室でのディスカッション、およびレポートの作成に取り組む。レポート作成については授業担当者が各分野のスタイルについて丁寧な指導を行う。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目
専門演習（5）	○	英米文化研究、英語研究それぞれのコースで小人数のクラスを設置し、これまでに習得した研究技法を用いて受講者自らの研究テーマに取り組んでいく。授業担当者の指導のもと、先行研究をふまえた上でオリジナルな研究成果の発表ができるように準備を重ね、卒業ゼミレポートの完成を目指す。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目
専門演習（6）	○	英米文化研究、英語研究それぞれのコースで小人数のクラスを設置し、受講者自らの研究テーマについての卒業ゼミレポートを完成させる。卒業ゼミレポートは国際英語学科での学びの集大成であり、受講者のオリジナリティを基本に高い完成度が要求される。クラスでは研究発表とディスカッションを行い、それをもとにレポートを磨き上げていく。演習科目では、明晰な思考力を培うために自ら考え、その結果を自分のことばで表現することが重視される。そのため学生の積極的な取り組みが求められる。	主要授業科目

学校法人金城学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金城学院大学				金城学院大学				
文学部				文学部				
日本語日本文化 学科	70	-	280	日本語日本文化 学科	70	-	280	
				<u>国際英語学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)
				<u>総合歴史学科</u>	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学科の設置(届出)
英語英米文化 学科	90	-	360		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
外国語コミュニケー ション学科	80	-	320		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
音楽芸術学科	45	-	180	音楽芸術学科	<u>35</u>	-	<u>140</u>	収容定員減(△40)
				<u>経営学部</u>				学部の設置(届出)
				<u>経営学科</u>				
					<u>140</u>	-	<u>560</u>	
<u>国際情報学部</u>								
国際情報学科	170	3年次 10	700		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月(1年次)
<u>人間科学部</u>				<u>人間科学部</u>				
現代子ども教育学科	120	3年次 5	490	現代子ども教育学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	収容定員減(△90) 令和8年4月
多元心理学科	110	3年次 5	450	多元心理学科	110	-	<u>440</u>	収容定員減(△10)
コミュニティ福祉 学科	75	3年次 5	310		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
				<u>デザイン工学部</u>				学部の設置(届出)
				<u>建築デザイン学科</u>				
					<u>80</u>	-	<u>320</u>	
				<u>情報デザイン学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	
<u>生活環境学部</u>				<u>生活環境学部</u>				
生活マネジメント 学科	70	-	280		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
環境デザイン学科	80	-	320		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月
食環境栄養学科	80	-	320	食環境栄養学科	80	-	320	
<u>看護学部</u>				<u>看護学部</u>				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
<u>薬学部</u>				<u>薬学部</u>				
薬学科(6年制)	150	-	900	薬学科(6年制)	150	-	900	
計				計				収容定員減(△550)
	1,240	3年次 25	5,310		<u>1,115</u>	-	<u>4,760</u>	

金城学院大学大学院				金城学院大学大学院				研究科の設置(認可)
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻(D)	2		6	国文学専攻(D)	2		6	
英文学専攻(D)	2		6	英文学専攻(D)	2		6	
社会学専攻(D)	2		6	社会学専攻(D)	2		6	
国文学専攻(M)	5		10	国文学専攻(M)	5		10	
英文学専攻(M)	5		10	英文学専攻(M)	5		10	
社会学専攻(M)	5		10	社会学専攻(M)	5		10	
人間生活学研究科				人間生活学研究科				
人間生活学専攻(D)	3		9	人間生活学専攻(D)	3		9	
消費者科学専攻(M)	8		16	消費者科学専攻(M)	8		16	
人間発達学専攻(M)	8		16	人間発達学専攻(M)	8		16	
				看護学研究科				
				看護学専攻(M)				
					<u>6</u>		<u>12</u>	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	2		8	薬学専攻(4年制D)	2		8	
計	42	0	97	計	<u>48</u>		<u>109</u>	